

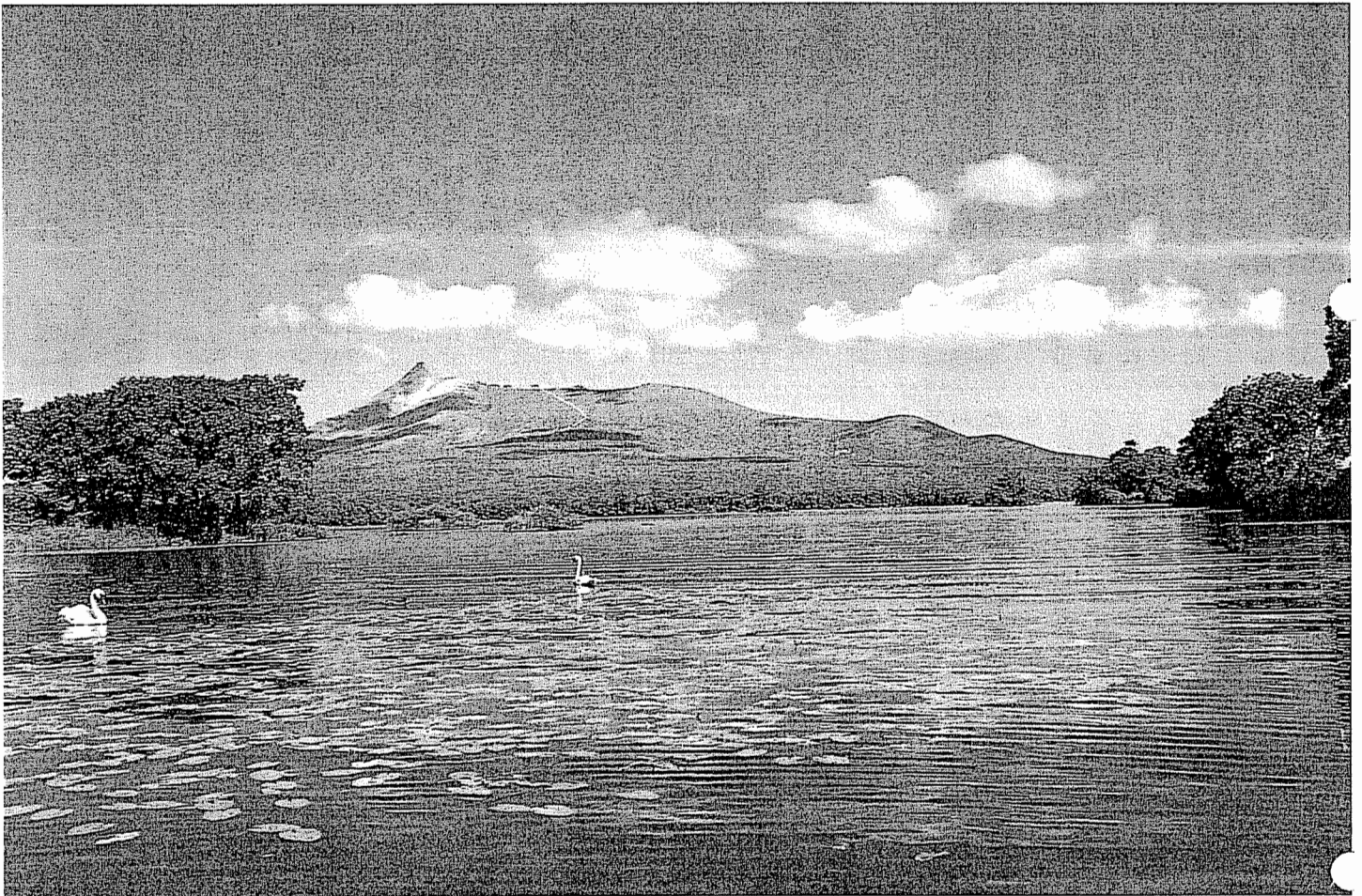
東京白楊だより

第21号
平成10.9.1



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校



世紀末交代の流れ

白楊ヶ丘同窓会東京支部長

52期 (昭和25年卒)

二上 達也

新聞雑誌など定期的に原稿を出しているが時々担当者が変わる。

電話連絡で「今度担当が変わりました。私何の誰それです。今後宜しく」と言った内容である。

その際の自己紹介で、名前は世紀末の紀ですとあつたときは思わず笑ってしまった。

他に言いようもあるように、それだけ現在は世紀末なる印象が持つているらしい。

実際、世紀末になるといろいろ怪しげなことが頻発する。

私の住む世界も奇怪なできごとが発生しては、いかなものかと首をかしげる。

過日札幌支部総会に出席して、ちよつと何かしゃべつてくれとの依頼があり、又ほかの会合で卓話の類でも、幹事の方から羽生について触れてくれとか、最近の将棋界にかかわる人間くさい話でも一つと言われてしまう。

羽生の場合は前向きな姿勢で話せるからいいとして、某大家にまつわるゴシップは閉口である。第一昔ならせいぜい内輪のうわさ話程度のものが、今はテレビからスポーツ紙、週刊誌、それにともなつて各種評論が飛び交う有様だったから、正に世も末だと言わざるを得ない。

さて事件事実はともかく、つらつら考えてみるに、我がことのみならず、世間一般新旧交代の流れに入っているようである。

そこに力業が入ってくるのか穏やかなものであるのか、どの道過去と違う変化が望まれている。

同窓会自体もやはり旧態から脱して行かねばなるまい。矢張り若い人達の意欲そしてパワーの發揮が必要であり積極参加を期待している。

小誌発刊に直接参画の皆様は心から感謝して摺筆ご挨拶に代えます。

函中の英知を結集して

函館中部高等学校長 藤原 忠



生は、これを以つて、旧制中学校五、八〇六名、新制高校一八、六七八名、通算して二四、四八四名となりました。

また、三月末日で、長年本校に奉職され函中の発展に寄与されられた国語の駒井敏邦先生、理科は化学の徳谷正先生、生物の池田元利先生、定時制給食婦の田部井栄子さんがご退職されるとともに、

難関を突破して道教委派遣で筑波大学大学院に進んだ先生、行政入りした先生、その他の人事異動で、全定合わせて十四名の教職員が本校を去りました。しかし四月には

新進気鋭の十三名の教職員を迎え、一段と若返つたスタッフに、失つたものの大きさを埋めるに足る若さと可能性を感じさせながら新年度がスタートいたしました。

今春の進学状況では、卒業生が一クラス減にもかかわらず、現役の国公立合格者は昨年に引き続き一〇〇名以上を維持し、その内容も東京大、大阪大等々と質的向上を示しており、私立でも早稲田、慶応をはじめ一〇〇名以上の現役が四年制に合格いたしました。また、東京学芸大や東京芸術大等に例年複数の合格者を出すなど芸術系への進学に優れているのも本校の特色であります。

本校は今、進路の質の向上を目指し、授業の充実、生徒の願いを視野に入れた講習の実施、各種検定試験

の精選化等に取り組んでおります。本校の今の勢いを継続させるためにも、生徒一人一人が「自ら求めよ」を合言葉として、文武両道に励む中から「白楊魂」を体得し、豊かな感性としなやかさを身につけるよう今後とも努めていく所存であります。

P T A活動では、昨年度の高校P T A連合会全道大会並びに全国大会において、本校の伝統ある「母の会」の活動を、前佐藤享子P T A会長が自らの体験に基づいて発表し、参加者の大きな共鳴を呼びました。その実績が認められ、今年度の全道大会で本校の「母の会」が全道表彰を受けました。来年は全国表彰を、と期待するとともに、来年は「母の会」結成五十周年の節目の年として記念行事も開催する予定であり、これを機に今後益々の充実を期待しているところであります。

今、本校は勢いのある学校として改めて教育関係者の注目を浴びており、今年度の高校入試でも近年にない厳しさとなりましたが、この人氣が上すべしなように、名実ともに充実した教育活動を展開すべく教職員が一丸となつて英知を結集している昨今であります。

白楊ヶ丘同窓会東京支部会員の皆様には、本校の更なる飛躍のために、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様には、函中に寄せる熱い期待のもと、いつもご支援と激励を賜り心より感謝申し上げます。先日はパソコン研究部に、活動の一助に、と温かい助成を賜りましたことを改めて厚くお礼申し上げます。部活動はもとより、これからの情報社会に向けて様々な学習活動に役立たせていただきたく考えております。

さて、去る三月一日には、本校の通算一〇〇回目にあたる第四十八回卒業証書授与式が和やかな中にも整然と挙行されました。山内同窓会長様、東京からは三國理事様、札幌の高島支部長様はじめ多数の同窓の皆様が見守られる中、和洋それぞれに盛装をこらし、きらりと個性を輝かせながら、全日制課程三一九名、定時制四十四名が本校を巣立って行き、白楊ヶ丘同窓会の新たな会員となりました。

全日制課程の卒業式の様子は新聞やテレビ等で全道的に報道され、関係者に様々な感動を与えたところでありませぬ。なお、本校の卒業

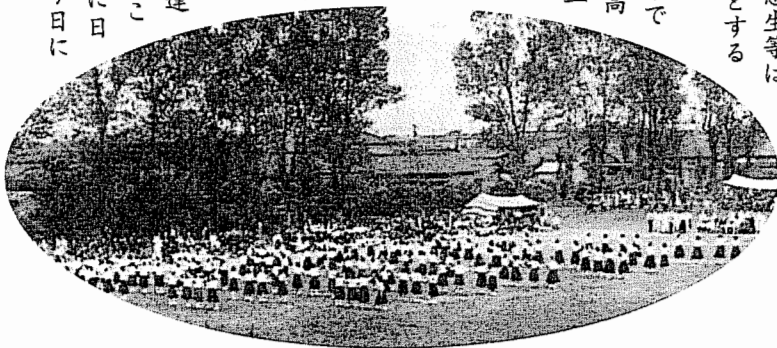
我が青春ポプラと共に

洞爺丸台風により学校敷地のポプラ倒れる

昭和二十九年九月、十五号台風は青函連絡船の転覆と言う日本海難史上最大の惨事を引き起こした。

本校の父兄十二名が痛ましくもこの難に遭い、直ちに校長と板垣教諭が弔問に赴いている。この台風の惨禍は本校にも及び、学校、公宅の瓦、鉄板等が飛散したばかりでなく、名物のポプラ並木の老木の大樹の数が無残にも倒れた。戦時中、防空壕を掘つたため根が弱つていたのも一因と言われる。ポプラが倒れたとき、近隣の民家の一部に被害を与えたので、その配慮から、並木はことごとく根本から切りつくされた。長年に渡つて愛称されたポプラヶ丘は、ここに往時の最大特色を失い、母校を訪れる同窓生等は、校庭に立つてしばし呆然とするのであった。

ポプラは成長の早い木である。その亭々として高きを望んで止まない向上性と、たくましい成長力は建学の精神の象徴とも仰がれるようになった。ポプラヶ丘からポプラは消えても、脈々として継承された白楊魂は生きています。歴代の校長、教師、諸先輩は、ことあるごとに、この不屈の精神を生徒達に伝え、生徒達もよくこれに応え、学習に部活に日常生活に体現し継承し今日に至っているのである。



校庭を囲むポプラ並木
函館中部高等学校第1回運動会—女子によるマスゲーム (昭和26年)

白楊ヶ丘同窓会東京支部 第21回親睦大会



65期(昭和38年卒) 副支部長 菅原 大作

“心のオアシス東京支部を活力ある集いに”をテーマに、白楊ヶ丘同窓会東京支部の平成9年度「第21回親睦大会」が、10月8日(水)午後5時より、東京・千代田区九段北の「アルカディア市ヶ谷・私学会館」で、来賓及び同窓生およそ160人が参加して行われた。



今年の特別企画は、渡辺憲司氏(立教大学文学部教授・昭和三八年・六五期卒業)が「幕末箱館の明と暗」と題して、幕末から明治、大正期に女性の風俗や教育事情などについて講演した。

渡辺氏は、昭和一九年函館生まれ。千代田小学校、中央中学校を経て、中部高校を卒業。立教大学卒業後、横浜市立商業高校(定時制)、武蔵高校、梅光女学院大学の教師生活を経て現職。都民カレッジ、東武カルチャーセンター講師の他、九五年にTBSテレビ・ザ・フレッシュのレギュラーコメンテーター。九六年、アメリカ・インディアナ大学客員研究員、台湾・輔仁大学の客員教授。専門は、江戸時代の文学・風俗史。主な著者は「仮名草子集」(岩波書店)「江戸のノンフィクション」(東京書籍)「江戸遊里盛衰記」(講談社現代新書)「近世大名文芸圏研究」(八木書店)など。

渡辺氏は、「江戸時代をテーマに、当時の小説の研究や近世の大名の蔵などに残された古文書類の整理、女性と子どもの風俗と歴史背景を研究してきたが、江戸時代後期から明治、大正時代にかけての函館の女性の風俗に焦点を当ててみたい」と前置きして講演に入った。

「我々が持つ江戸時代のイメージは、明治、大正、昭和のいわゆる近代からの歴史観が規定している。十六世紀の日本をフロイスは、『欧州では夫が前方を妻が後方を歩む。日本では夫が後方を、妻が前方を行く。欧州では財産は夫婦間で共有するが、日本ではおのおの自分の分け前を所有し時には妻が夫に高利で貸し付ける。欧州では墮落した本性に基づいて男たちが妻を離別するが、日本ではしばしば妻が夫を離別する。欧州は、妻は夫の許可なく外出しないが、日本では夫に知らず自由に出出す。欧州では女性が文字を書く心得はあまり普及していないが、日本の貴婦人では心得がなければ格が下がるとされる。欧州では女性が葡萄酒を飲むのは非礼とされるが、日本では女性の飲酒が頻繁で、祭礼においては度々酩酊するまで飲む」と記している。

これらのすべてが正しいとは言えないが、多くの点で実証出来る。例えば、離婚は近世後期には武士体制が庶民の間にも行き渡って女性からの離別が難しくなったが、前期にはかなり自由に来た。女性の飲酒も、絵草紙などに女

性同士の行楽風景が多く描かれているし書物などにも記録されている。

昭和三三年に売春防止法が施行されるまで、国が関与する公娼制度の遊廓が存在した。遊廓には、必ず病院と交番、教育機関が設置され、病院は梅毒の検査を、交番は遊女の登録と免許交付を行った。遊女は上中下に分けられ、それに応じて税金を収めたが、ランク付けも交番が行った。遊女が逃げたときには、経営者と一緒に交番も搜索した。教育施設は女紅場と呼ばれ、遊女を勤めた後、社会生活が出来るための訓練施設である。

函館には、明治十一年五月、敷地面積二千六百坪の女紅場が京都に次いで全国で二番目に作られた。授業は午前九時から午後一時。本科が洗濯・裁縫・紡績の技術の習得、予科が文字の読み書き・習



白楊の同窓会



院で勝訴した。自由廃業は、借金があっても遊女をやめられるというものだが、裁判後、東京では二千五百四十五人もの娼妓が自由廃業した。ただし、二年後の三五年には、借金があると廃業出来なくなり、元に戻った。しかし、明治三十三年からの二年間、函館の遊女の大きな勇気で自由廃業が認められたことは事実であり、キリスト教関係者の娼妓運動の努力もあったが、運動を支えた函館の良さがあつた。

字であつた。しかし、借金返済のために遊女は一晚に五人の客の相手をしなければならず、朝の九時から授業に出ることは難しかった。しかも、自由意思での参加なので、登校者は少なかった。そのため、明治十三年には三十歳以下の遊女に登校を義務づけ、怠慢な者には罰金を課した。最も多い罰金額は三〇円である。当時、函館区長(現在の市長)の月給は二五円。大変な金額だつたが、それでも登校者は少なかった。女紅場は明治二十年に廃止されるが、この間の卒業者は一人のみと記録されている。

明治十二年の国税と地方税の徴収状況を記した函館支庁管内一覧表によると、地方税のうち遊廓分が実に八六%を占める。当時は品目が少なかったため、遊廓の割合が多いのは当然であるが、その後五割を下回ってはいない。税収の多くは学校や教育設備などに使われたが、遊女の犠牲のもとに函館の教育の基礎が作られたと言つても過言ではない。

明治三十三年、函館蓬萊町の遊廓丸山楼の娼妓・坂井ふくが、自由廃業を求める訴訟を起こし、大審

江戸時代の教育の基本は、暴力の絶対的な否定である。頭者な例は、明治元年開校の沼津兵学校で、兵学校でありながら笞や杖で叩くことを禁止している。寺子屋でも暴力を否定し、子どもたちは自由闊達に振る舞つた。教場の多くは通里から丸見えであり、教師が子どもを叩けば親が飛び込んで来た筈である。

一六九四年にオランダのアムステルダムで出版された『日本伝聞記』には、『日本では、両親は注意深く子どもを育てる。子どもに対する態度は柔らかく、養育の手段として殴ることはまれである。子どもの過ちは年齢とともに自然に完成していく成長中の理性の成り行きであると考え、両親の子どもに対する念入りな教育や度重なる警告によつて、七・八歳ないしそれ以上の少年たちは、早い早いの

違ひはあるが、老人に匹敵するよいうな落ち着いた態度と会話において高い知識を表すようになる』と記されている。

また、近世後期に刊行された中村弘毅の『父子訓』では『父のあるべき教化の態度は慈である。慈をもつて子を教え導くことは家を長久に伝えるために家長の最も肝要とすべきことである』と教えている。

しかし、現在は『慈』が忘れ去られている。『親不孝』の反対語は『子不慈』である。現在は『子不慈』という言葉が消え、少なくとも『不慈』は今では我々には馴染まない。『慈』が消えた時期が明治時代である。

武士と町人の文化が混在していたのが江戸時代。町人文化が強くなり、武士社会にも影響を及ぼした。しかし、明治になると、社会全体が武士化し、武士の倫理で武士のように振

第21回白楊の同窓会東京支部



る舞うようになり、その結果、厳父が要求されるようになった。そして、明治二十年頃を境に、教育にも厳しさが要求され、この厳しさを体罰による指導と取り違えて、教師が生徒を叩くようになった。

最近、神戸で起きた連続殺傷事件の原因の一つに、父親・父親の不在が言われ、もう一度厳父の時代が必要との声も多い。しかし、厳父の背後には、現在では忘れ去られた子どもに対する『慈』という考えがなければならぬことを肝に銘ずべきである。

最近の大きな問題の一つに『いじめ』がある。いじめの原因には多くの要因があり、解決法が全く分かっていない。しかし、一つだけ共通することは、いじめられた子あるいはいじめた子にはいづれも教師または親に殴られた経験がある子が多い。これはあくまでも統計結果であるが、子育てや教育現場では、常に子どもに愛情を持って接する必要がある』と、近代の函館の諸事情と、これからの教育のあり方を中心に興味深く講演、参会者に多くの感銘を与えた。

講演会の終了後、会場を移り、午後六時三十分より、懇親大会に移った。

大会の司会は、第七十期・石黒秀喜氏と第七八期・岡部あさ子さんが担当した。大会では、最初に、第六九期・米木かをりさんのピアノの伴奏で、旧制・函館中学校校歌(同窓会歌)

「玄冥の北の一道…」を全員で合唱。雰囲気を感じ上げた。

続いて、支部長の第五二期・二上達也氏が、「大会には、母校の校長を始め、本部同窓会長、札幌、大阪の両支部長、函館西、東両校の同窓会からもご出席いただいた。本日は皆さんと一緒に函館を懐かしく思い出しながら語り合いたい」と開会のあいさつを行った。

藤原忠校長は、「百二年の歴史を持つ函中の第三十代校長に就任した。伝統の重さに身の引き締まる思いである。函中発展に誠心誠意努力したい。」

文武両道の生徒の育成を目指しているが、今年は国公立大学へ八百八人、私立大学へ百五十六人が現役で合格。運動面では、男子バスケット部が北海道地区で優勝したほか、十一部が全道大会に進出。野





球部は春夏連続出場した。また、毎年各界の著名人を招いている文化講演会は、大槻義彦早稲田大学教授の講演が行われた。文化庁が今年から企画実施した「触れ合い舞台芸術」の全国三校の一つに選ばれ、体育館で松山バレエ団の公演が行われ、生徒に感動を与えた。豊かな感性を養う情操教育にも努力している。

我々が「バルテノン神殿」と呼ぶ新校舎の四本の柱に託した建学の精神「自主自立、自由闊達、質実剛健、堅忍不拔」を在校生に引き継いで貰うよう教職員一同努力している。

優れた同窓の方々計りが知れない有形無形の財産を在校生に与えておられることに改めて深く感謝したい。東京支部の皆様には今後とも指導と協力をお願いしたい」と述べた。

次に、来賓として出席された山内隆陽白楊ヶ丘同窓会長、高橋治郎同札幌副支部長、手塚泰彦同関西支部長、鈴木進同函館支部副幹事長、新谷義克同館西高等学校・つじヶ丘同窓会長、函館東高等学校・関東地区青雲同窓会日比野朋子副会長をそれぞれ紹介した。

来賓を代表して、山内同窓会長が「前任の藤岡会長の後を受けて、九月に新たに就任したばかりである

が、東京を始めとする全国各地の支部間の連携を一層強めると同時に会員相互の親睦と融和を図り、母校の発展に努力したい。また、平成六年に作成された名簿の改訂作業にも着手したい」とあいさつした。

続いて、菅原副支部長（総務担当）が役員任期について、「二上支部長を始め役員任期が本大会をもって終了する。支部長は若い世代に任せたいと考えておられたが、後任の人選が進んでおらず、二上支部長にもう一期続投していただき、任期中に新たな支部長を決定したい」と提案。満場一致で承認された。

この後、室谷邦雄氏（昭和一〇年・三七期卒業）の音頭で乾杯、懇親会に移った。

会場内には、例年と同様に、函館市東京事務所から寄贈を受けた函館の夜景や湯の川温泉、元町界限などのポスターが多数貼られ、雰囲気盛り上げた。

一年振りあるいは久しぶりに顔を会わせた会員の間では、先輩、後輩の隔てなく会話が弾み、随所で懐かしい函館弁が聞かれた。ま



に包まれていた。また、北海道七飯町産のジャガイモを産地から自宅へ直送する同窓会特別賞を始め、函館市東京事務所寄贈のワインや会員寄贈の洋酒やテレホンカードなど、およそ八〇点が用意された恒例の寄贈品抽選会では、賞品が当たる度に歓声が上ががり、一段と雰囲気盛り上がりつつあった。

大会の最後に、米木さんの伴奏で、校歌「火柱のはためく峰も...」を全員で合唱。次回の再会を約束して、午後八時三十分過ぎ終了、散会した。

白楊ヶ丘同窓会 関西支部大会

第三回大会は、平成九年九月六日「ホテル・グランヴィア大阪」において、午後四時から総会と講演会、午後五時三〇分から懇親祝賀会が行われ、約五〇人が参集、当支部から二上支部長と福津理事が出席した。

総会では関西支部規約が制定され、「関西白楊ヶ丘同窓の集い」が「白楊ヶ丘同窓会関西支部」として新発足した。

講演会では二上支部長が「将棋四方山話」と題して講演した。将棋という魅力に引かれていった少年期、特殊な勝負の世界の裏話をひょうひょうと語り、皆、興味深げに聞き入った。

函館中部高校卒業式 及び同窓会入会式 並びに卒業祝賀会

平成十年三月一日午前十時から中部高校第四回卒業式が同校体育館において行われ、藤原校長から生徒一人ひとりに卒業証書が授与され、三一九人が新たな希望と決意を胸に巣立った。

白楊ヶ丘同窓会第一〇〇期生の「同窓会入会式並びに卒業祝賀会」は午後一時半から五島軒本店において行われ、山内同窓会会長の歓迎の言葉、各支部代表の祝辞等の後、各クラス代表や担任の先生方の余興が賑やかに行われ、共に卒業を喜び合って終了した。



ドキュメント・昭和21年甲子園への道

全国大会出場果たした

苦難と幸運のドラマ



48期 伊藤 辰男

◆プロローグ

今年、函中野球部は創部百年目を迎えた。また、旧制中学・高校球児が数々のドラマを織り成してきた夏の甲子園大会は80回を数えた。この大会に函中野球部が北海道代表として出場したことが過去に二回ある。最初が大正10年（第7回大会）。そして二回目が昭和21年（第28回大会）、戦後から一年後の8月15日に開会式を行った復活大会だ。52年も前のことだが、選手の間としてこのドラマに加わった私には、つい昨日のこのように思い出される。

戦争の傷跡はまだまだ深かったが、ラジオからは並木路子の「リングの歌」が流れ、一筋の光明を頼りに、人々は心を奮い立たせていた。そんな中で、甲子園大会とともに、東京六大学野球、プロ野球、都市対抗野球も復活し、子ども達は皆、野球少年になった。

しかし、甲子園球場は米進駐軍に接収されていたため、第28回全国中等学校優勝野球大会は西宮球

場で行われた。

大久保熊太郎教頭を筆頭に、浜岡栄一郎長、笠川治一監督、そして五年生の水上大治（主将）、飯田辰雄、池田幹彦、石戸谷忠、金田重弘、伊藤辰男、四年生の沼澤康一郎、三國比左男、山田隆、西村源太郎、神尾隆治、村岸勝郎の15名が参加、準々決勝（ベスト8）まで駒を進めた。この時の汗と涙のドラマを再現してみたいと思う。

◆路地をかける野球少年たち

私は、男ばかり10人兄弟の八男坊として生れた。その切磋琢磨の迫力は容易に想像できるだろうが、その頃の子どもの多くがそうであったように、私も、柏野小学校から帰ると、ランドセルを家の中に投げ込み、そのまま外で遊び回るヤンチャ坊主だった。そして、スポーツ好きな兄達に混じって、球拾いをしながら野球のおもしろさを体で覚えていった。

小学校で同級の水上とは、家の前の路上や函館商業のグラウンドでキャッチボールをした。私の家は、

遺愛女学校正門前の理髪店の通りを入ったところであり、山田の家も同じ通りであった。後に高等水産専門学校（現北大水産学部）の投手で活躍した柳谷先輩の家もあり、山田は毎日、柳谷先輩とキャッチボールをしていた。

縁は不思議なもので、独身時代の浜岡先生は柳谷家に下宿していた。後に、浜岡先生が函中野球部の部長となり、水上が投手で主将、山田がサードで一番、私がセカンドで二番を打つことになる。

青柳小学校の三國は、昭和15年に完成した函館市民球場の近くに住んでいたもので、全国に名を轟かせていた社会人野球の名門チーム、函館オーシャン倶楽部の試合を欠かさず観戦し、オーシャンのスター選手に憧れながら、近所の葦浦豊彦（後に函館市立中学の剛球投手）、納代正信（函中から高水に進み大学野球で投手として活躍）らと野球をしていた。

そして我々の仲間から唯一人プロ野球選手となり、毎日オリオンズ（現ロッテ球団）捕手、南海現ダイエ

ー、ヤクルトのコーチ、野球評論家、少年野球指導者などとして野球一筋の人生を生き抜いた沼澤は、弥生小学校で自分が好きな相撲をやりながら、弁天の自宅前で野球好きの父親とキャッチボールをしていた。このように、当時の仲間は小学校は違っても、それぞれの環境で野球を楽しみ、伸び伸びと育っていた。

◆函中野球部の復活

私は昭和16年に函中に入学した。当時の世相は大東亜共栄圏の名のもとに軍国主義一色で、この年から甲子園大会は中止となり、野球部もなかった。12月8日、米英に宣戦が布告され、太平洋戦争という悪夢の時代が始まった。

昭和20年8月15日の終戦の日を、私は海軍経理学校予科で、山田は陸軍幼年学校で、沼澤、三國、西村等は勤労動員先で迎えた。平和の尊さと喜びを噛みしめながら函中に戻ってきた生徒は、学業にスポーツにと励むようになった。翌21年1月21日、朝日新聞の社会記事で、全国中等学校優勝野球

大会の復活開催が知らされた。函中野球部はすでに終戦の年の11月、水上を中心に宮崎一郎、長澤正徳、手塚健一、池田隆一、高橋昭、平山洋一、太田力夫、石戸谷、金田等の五年生、沼澤、三國、山田、西村、神尾、近藤充夫、橋詰展昭、納代正信等の四年生が、オーシャン倶楽部の伏見滋夫先輩の指導で復活の第一歩を踏み出していた。

昭和21年春、雪解けを待ってピッチャーズマウンドを造り直し、沼澤の父、玄伍氏の手で魚網のバックネットが張られ、先輩が残っていた野球用具を補修して、本格的な練習が開始された。捕手の飯田、遊撃手の池田、私は五月に入部した。伏見先輩が都市対抗戦に出場することになったので、監督が笠川先輩に変わった。

◆市立中戦の逆転劇

新生野球部は、毎日暗くなるまで練習に励んだ。日曜日は、朝から代用食の弁当を持って集まり、日没まで猛練習に打ち込んだ。私も練習成果が高まり、「伊藤は、セカンドで二番が最適だ」と監督から言われた。

ところが予選の数日前、私は自宅で、自分の不注意から左手の甲を三針縫うという、全治10日間ほどのケガをしてしまった。バットも握れず、キャッチボールもできず、チームメイトに申し訳ない気持ちと、試合に出られない無念さでやり切れない思いに沈んだ。道南地区予選は函館市民球場で行われた。初戦の相手は函館工業。私はベンチで勝利を念じながら声を

頃らして応援した。

試合は伯仲し、八回を終わったところで5対6とリードされていった。残りの一回に我々はすべての闘志をかけた。その気迫が通じ、九回表は、四球と敵失に続いて三國、石戸谷の連続安打が出て3点を挙げ、逆転に成功した。しかし、水上のピッチングが本調子でなかったので、九回裏の不安が残っていた。だが、この回からリリーフした沼澤が好投し、三者凡退にピシヤリと打ち取って、感激の逆転勝利を収めた。

その翌日、逆転の感激と自信を胸に決勝戦に臨んだ。道南地区予選に参加したのは、わずかに四校だったのである。決勝の相手は、大野農学校を22対3の大差で破って勢いに乗る函館市立中学だった。

この試合も伯仲したが、六回を終わったところで5対4でリードしていた。ところが野球は何が起るかわからない。七回表途中から雨が降りはじめた。とたんに水上が制球を乱し、雨が強くなるにつれて野手のエラーも誘い、あれよあれよという間に5点を失い、5対9と逆転されてしまった。

雨はますます激しくなり、グラウンドは一面水びたしになった。ここで審判団から試合中断の宣言が出た。市立中の攻撃半ばで、函中にとつては絶体絶命のピンチである。控室で試合再開を待つ間、重苦しい空気が漂っても不思議のない状況だった。しかし、部長も監督も選手も、たがいに笑顔で明るく、逆転を信じて励まし合っていた。函中野球部の強さはここにあった。

ったのではなからうか。

やがて雨があがって陽が射し、グラウンド整備が終わって、約二時間の中断で再開された。気持ちも落ち着いた水上は本来の調子に戻り、それ以上の点を与えずに七回表を切り抜けた。そして七回裏、満を持した函中の攻撃は、水上二遊間安打、高橋四球、ダブルスチール、池田内野安打、山田四球、再びダブルスチール、三國內野安打、沼澤四球、石戸谷がとどめの左中間二塁打を放ち、何とこれで一挙6点。あつという間に11対9と逆転、実に凄まじい展開になった。その後は両軍とも得点なく、結局、雨中断をはさんだ七回の攻防が勝負の分かれ目となった。昭和21年7月22日のことである。

この道南地区予選での二つの大逆転劇がなければ、その後のドラマもなかった。ケガで出場できなかった私は、唯々、球友の活躍に感動し涙を流した。そして、もし北海道大会で出場機会があれば、全力で頑張ろうと心に誓った。

◆勇躍、北海道地区予選へ
五日後、函中野球部一行は、北海道代表の座を目指して札幌へ向かった。私の左手のキズは抜糸は終わっていたが、強い球を受ける痛みが走り、包帯の表にまで血がにじむ状態だった。札幌では札幌商業の教室に合宿した。

北海道大会には、各地区予選を勝ち上がった八校が参加。7月28日午後3時から北海中グラウンドで開会式が行われ、29日午前8時10分、函中对札幌二中戦で決戦

の火ぶたが切られた。私は、セカンドで二番に起用された。

三回表、札幌二中に三塁打が出て2点を先行されたが、四回裏、四球と沼澤、石戸谷の連続安打に続いて水上の三塁打が出て4点を奪い逆転した。しかし、スコアは九回表を終わったところで5対5の同点になっていた。

迎えた九回裏、ここで1点取れば函中のサヨナラ劇の場面である。先頭打者は私だ。「何としても塁に出なければ」とはやる気持ちを抑えてバッターボックスに立った。監督の指示は好球必打。精神を集中して無心に打った。打球は運よくレフト前のクリーンヒットとなった。続くバント戦法は実らず一死一塁。私はベンチを見た。何と盗塁のサインが出ているではないか。絶対に失敗は許されない。

相手投手が時々ゆるい牽制球を投げる癖のあることと、一塁手の投げるモーションが大きいことから、普通の盗塁よりも、投手が牽制球を投げる瞬間にスタートを切る形のディレードスチールの方が確率が高い、と私は判断した。

迷わずこれを実行し、猛然と二塁ベースに滑り込んだ。盗塁成功。相手チームは唖然としていた。後は函中が誇る四番沼澤、五番石戸谷と続く強力打戦。サヨナラ劇のお膳立てができた。沼澤が四球で一死一、二塁となり、期待に応えた石戸谷が見事に二遊間を抜いた。私は全速力で三塁ベースを蹴り、ホームを駆け抜けた。大きな歓声と拍手の中で胸が踊った。優勝候補と見られていた札幌二中を破っ

懐想・私と函中野球部

勝利を呼んだ恵みの雨

51期 三國比左男



昭和21年7月22日、道南地区予選での函館市立中学（現函館東高）との決勝戦が忘れられない。5対9と逆転された七回表途中で雨がひどくなり試合が中断された。激しい雨で、こちらは「ノーゲームで再試合になればいい」と思っていた。

しかし、「勝てる」と踏んだ市中の連中はやる気満々。市中の選手の父兄が弁当の提供を出してきたほどであった。その執念で約二時間後に再開されたが、七回裏の守りについた市中の連中が、ぬかるんだグラウンドに足をとられたりして、こちらが6点をあげて11対9で再逆転した。

この時の雨が、全国大会出場の幸運を呼んだような気がする。実力にそんなに差のない頃だったので、結局は「運」が勝負を分けたのだと思う。

北海道大会に出場することに、札幌では札幌商業の教室で寝泊りした。教室の中のストープで先生方が煮炊きをしてくれた光景がなつかしい。

道南大会では打撃好調だったので、私は北海道大会で三番に起用された。ところが、三試合ともノーヒットで、両脚肉離れで満足に走れない状態にもな

り、札幌では札幌商業の教室で寝泊りした。教室の中のストープで先生方が煮炊きをしてくれた光景がなつかしい。

道南大会では打撃好調だったので、私は北海道大会で三番に起用された。ところが、三試合ともノーヒットで、両脚肉離れで満足に走れない状態にもな

て函中の意気は大いに高まった。

準決勝は翌30日。12時13分から帯広中学との間で開始された。この試合は両軍合わせて19安打、15四球、15失策、13残塁、33得点、追いつ追われつの大乱戦となった。

泥まみれの死闘は、八回裏が終わって14対15と帯中のリードで、九回表の函中の攻撃を迎えた。もし得点できなければそのまま負けとなる。是が非でも1点は取らなくてはならない。まず池田がライ

ト前に打った。続く私の打球は二塁打となった。相手エラーもからんで、この回、3点を挙げ、17対15とまたまた逆転した。

しかし喜びもつかの間、九回裏の帯中の粘りも凄かった。1点を奪われて1点差に詰め寄せられ、さらに一死満塁の大ピンチとなった。函中ナインは祈る気持ちで守った。センターに大きなフライが上がった。取った。三塁ランナーはタッチアップをためらい、二死満塁となった。次の打者も粘った。カウントは2-2、次の水上の一球が運命を分けた。見送りの三振でゲームセット。17対16で函中に凱歌があがった。函中は感動の涙、帯中は無念の涙、明暗の差の何と厳しいことか……。レベルが低かったとは言え、試合は正に筋骨きのない青春ドラマだった。

この熱い血潮を胸に、翌31日、光星中学との決勝戦に臨んだ。「ここまできたら、もう絶対に負けられない」と函中の意気はますます高まった。午後1時45分、北海道の覇者を賭けた決勝戦がいよいよ始まった。

二回に2点を先取されたが、三回、山田、沼澤、石戸谷のヒットで4対2と逆転し、四回にも6点を加えた。水上、飯田のバツテリーも踏ん張り、結果は12対5の大勝利に終わった。北海道の代表として、全国大会に出場する権利をついに獲得したのである。

◆全国大会ではベスト8に

8月8日午後10時、函中一行は大勢の見送りを受け、全道の期待を背負って、連絡船暁南丸に乗り込んだ。10日午後8時、全国の代表19校の一番手で大阪に到着した我々を、多くの先輩、関係者が歓迎してくれた。その後二日間は先輩の家に数かず泊めてもらい、12日からは関西学院大学の寮に他の代表校選手と一緒に合宿した。そして8月15日、いよいよ開会式当日だ。四方の大観衆の歓声と拍手に酔いしれ、私は感激と興奮で、文字どおり宙を舞う思いだった。

函中は抽選で二回戦からの出場となった。相手は過去に四回連続甲子園出場の実績を持つ強豪、山形中学だ。8月17日午前11時28分、山形中の先攻で試合が始まった。

一回表に連続ヒットで1点を先取されたが、二回裏に沼澤が右翼頭上を越える三塁打を放ち、返球ミスの間に一挙本塁をつき同点とした。この一打で函中打戦に火がついた。三回裏、一死一塁で私の打順になった。レフト前に飛んだ打球はワンバウンドで野手の頭を越えて三塁打となった。飯田のスクイズバントは絶妙の内野安打となり私が生還。さらに沼澤、石戸

谷の連続安打でこの回3点を挙げ、4対1と勝ち越した。

四回裏には三國が三遊間を抜き、池田がライト前に打って一死一、二塁で再び私に打順が回ってきた。打球は右中間を割る二塁打となって2点追加。さらに飯田の内野安打と沼澤のタイムリーで、この回4点を挙げ、8対1とリードを広げた。その後、山形中の粘りある攻撃で4点を取られたが、函中も石戸谷のランナー一掃三塁打などで5点を追加し、13対5の快心の勝利で初戦を飾った。

これでベスト8に名を連ね、準々決勝の相手は、大会随一の左腕・平古場投手を擁する浪華商業（現大阪体育大学浪商高校）である。「浪商に平古場という凄い投手がいる」という話は、我々も大阪へ来る列車の中でプロ野球選手から聞いていた。また実際に、浪商と和歌山中学の試合を観て、16奪三振の快投ぶりに驚いていた。

8月19日午前8時53分、浪商との試合が始まった。その時の私の第一打席は今も忘れられない。それまで、左投手とは対戦したことはなかったが、球がよく見えるバツティング好調の自信と闘志で打席に立った。一球目が来た。もの凄く速い。思い切り振った。空振りである。キャッチャーを見たら、立ち上がって受けていた。とんでもないボールを振ってしまったのだ。二球目は球筋をよく見ることにした。きれいなシュートでストライク。「こりやダメだ」と思った。三球目はフラフラした球が来た。ボールだろうと見ていたら、

懐想・私と函中野球部

工夫と洒落の頭脳プレー

51期 西村源太郎



終戦後で物のない時代だから、どこも同じだったと思うが、練習するにも用具がなくて困った。先輩のいた函館オーシャン倶楽部から使い古しの綻びたボールをもらって、修理して使ったが、打つと糸が切れ、ブーンと凄いい音を立てて飛んできた。だから毎晩、家にボールを持ち帰って丹念に補修したものだ。

学校の工作室の奥から、先輩が残して置いてくれた、カビで真青のプロテクターやグロုပ်などが出てきた時は感激した。帽子、ユニホーム、ストッキ

ングは自前、母親や姉に縫ったり編んでもらったもの、古着屋から見つけてきたものなどを身につけた。柔道着のパンツの裾にゴムを入れた奴もいた。マチマチの生地ユニホームに函中のローマ字を縫いつけた。当時の写真を見ると、ローマ字の位置が各自微妙に違っていておかしい。

入手困難だったのはスパイクシューズ、物々交換で入手した者、先輩から譲り受けることができた者はよかつたが、地下足袋組も多く、北海道大会にもこれで臨んだ奴がいたほどである。

一番大変だったのはバットだ。材質の悪い木を削って作る

ので、すぐにささくれてポロポロになってしまふ。芯を外したところで打つと折れてしまふ。そこで、ボールを当てる部分に、「カニと氷水」「スイカと天ぷら」「那須の与一」などと書いて目印にした。よく当たるようにというおまじないである。これも函中生の高等頭脳プレーのひとつだった。

北海道大会で札幌商業の教室で寝泊りしている間は、銭湯に行つて汗を流した。決勝戦の前日、相手の札幌光星中学の連中と銭湯で一緒になった。向こうはこちらに気づかず、「函中が相手なら楽勝だ」と言い合つていた。それまでの試合は接戦、逆転ばかりのハラハラ勝利だったが、決勝戦は12対5と逆にこちらが楽勝させてもらった。光星中にとっては、まさに油断大敵の結果であった。

西宮大会には揃いのユニフォームをと、函館市役所チームのユニフォームを借りていったが、「巴のマークではやっぱりおかしい」と、予選を勝ち抜いた不揃いのもので臨むことにした。しかし、入場式のリハーサルでバラバラのストッキングが恥ずかしかったので、先生に懇願、一番安いのを買つてもらった。



同窓会とは

40期(昭和13年卒)
相馬 正樹

六月下旬に大学の同窓会のソフィア支部総会に出席して、二十数名のブルガリアの卒業生と久しぶりに語り合う機会をもった。歓談中同席のソフィア大学のイワン・ラルフ総長に

「ソフィア大学にも同窓会という卒業生の組織がありますか」と聞いてみた。

「いや、そんな組織はないが個人的に親しい人達が集まることはありますよ」という答えであった。その言われてみれば、外国の大学の同窓会の話は聞いたことはないし、ドイツの場合は、他の大学でも単位がとれるから、必要な単位を満たせば大学卒業の資格が認められる。したがって、この場合には特定の大学の卒業生ではないから同窓生にはならない。ついでに若い卒業生にも聞いて見たら

「われわれは勉強するために大学にきているので、同級生とても仲間とは限らないし、在学中はむしろ競争相手であるから卒業しても懐かしいという感情はわかない」ということであった。わが国のように、目的意識もなく大学に籍を置く学生たちにとっては、同期生は懐かしい遊び仲間である。これが生涯付き合う仲間であるとは日本の大学生にしか通用しない感覚ではないのかと反省させられた。その言われてみると、狩猟民族が群れをつくるのは、狩りをするのに便利な場合とか、他の民族との抗争の場合に限る。われわれ農耕民族のように、むかし同じ学校に学んだからというだけで何の目的もない集団をつくることは理解できないかも知れない。これが大学の同窓会のかかえる問題点であろう。

ところが、生まれ育ったふるさとの学校については、土地と学校とが一体となった強い絆でむすばれているという違いがある。

わが白楊ヶ丘同窓会のよりどころはここにある。それは、社交性にかけて他の社会と協調できない欠陥をもつ人達という背景があれば、気心の知れた同志で群れを作る同窓会の存在価値が大きな意味をもつてくることになる。

日常の生活の中で、新しい発想を必要としない農耕民族には、学問をするよりは人の和を大事にするという血が、現在にまで脈々と伝承されているとは思いたくないのだが。

ブラキストン線と

柳田勇先生

42期(昭和15年卒)

田沼 静一

ある探しものをしていたら函中校友会誌・学叢四十四号(昭和十年)からの数冊が見付かった。函館の家で眠っていたのが仙台、横浜、葉山と引越すごとに荷物に紛れこんできたらしい。四十六号というのが郷土特集号となっていて、熊が根曲り竹に通した鮭を二匹担いでいる表紙だ。ここに「函館の天牛蟲に就て」という柳田勇先生の論説がある。この頃生物の先生には柳田十九男先生と柳田勇先生がおられ、それぞれポチとイロポチという仮名が奉られていた。勇先生はたいへんおしやれな先生だったからである。私は勇先生の率いる博物館研究会というのに入って毎日曜日雁皮(がんび)平とか志苔(しのり)浜とかに出掛けて植物や海藻の採集を楽しんでいた。勇先生はあまり野外採集には出掛けられないと思っていたが、この天牛蟲(カマキリ)の論説は函館近傍のカマキリ五十五種もの学名採集地、和名を挙げておられる。そのほとんどは「自身の採集、一部は生徒会員によるものである。一、ケマダラカミキリ、横津岳から五十五、トラカミキリ、亀尾、神山に至る表が掲げられているが省略する。先生によれば函館における生物相研究の必要性はことに大きく、それはブラキストン(Balston)の居住し活動した土地だからである。

ブラキストンは一八八三年に「日本列島とアジア大陸の古き連結の動物学的指示」という論文を東亜協会例会で発表され、哺乳類・鳥類の分布では、日本内地は満州亜区に属すべきで南北動物群の混合地域であるが、北海道樺太はシベリア亜区の動物相の東端に属し、津軽海峡はその境界線であるとした。この講演と討論の後、津軽海峡をブラキストン線と呼ぶことになった。これがブラキストン線のも由来である。その後、生物区の境界として津軽海峡を重要視する説と、宗谷海峡を重要視する説と、両海峡を共に重要視して北海道を両亜区の接触地帯と見る説と三学説が生まれている。また哺乳類・鳥類のみならず、爬虫類、両棲類、昆虫等の分布についてもブラキストン線が論じられている。柳田勇先生はこのような背景における函館近傍の天牛蟲について学叢に発表されたわけである。それから五十八年後の今日、学問的興味だけでなく新たなエコロジカルなデータベースとしてもブラキストン線をはさむ生物相に関心が向けられよう。五十五種のカミキリは今も健在であろうか。

函館と大学

45期(昭和18年卒)

田沼 修二

いま函館では「公立函館大学」の開学の準備が急ピッチで進んでいるという。戦前の函館は他都市に比べて先進性を誇っていたが、教育への関心は低かった。商人に

学問は要らないとの考えからか、函館中学・函館商業・函館高女など他都市の水準を凌駕する中等教育は充実していたが、高等教育機関の誘致には関心が低く、力と意欲のある青年は他都市にある高等学校や大学を目指すのが、当然のこととされてきた。

戦後の学制改革で大都市は勿論、中小都市にも大学が乱立する時代になっても函館の動きは緩慢であった。しかし漸く二十一世紀を前に、函館に大学が誕生することになったことは市民にとっては勿論、函館に縁の深い我々にとっても朗報といえよう。

幕末の箱館の洋学

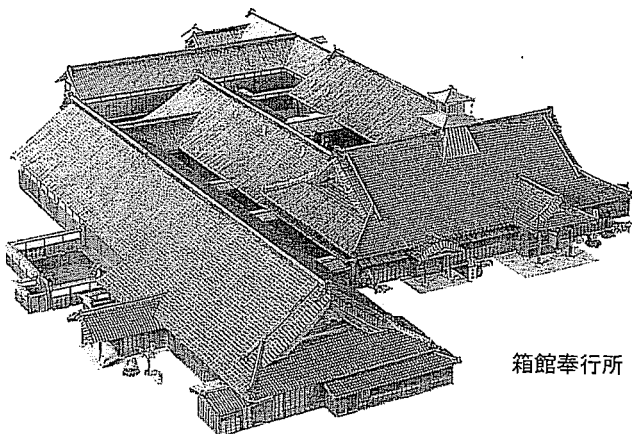
ところで「敗者の精神史」という大著で大佛次郎賞を受賞し、注目を浴びている文化人類学者の山口昌男さんの調査によれば、実は幕末の箱館には「語術調所」という名の洋学の総合大学があったという。



武田斐三郎

大洲(愛媛)藩士の武田斐三郎(あやさぶろう)は、緒方洪庵の適塾で塾頭を務めた秀才で、安政元年に幕府官僚に請われて箱館奉行所の開設に当たった他、五稜郭の築城をはじめ、箱館での活躍には目を見張るものがあった。山口さんは五稜郭築城と並ぶ武田斐三郎の業績として、安政三年

に奉行所の中に開いた「諸術調所（しよじゆつしらべどころ）」にスポットを当て、日本で最も早く設立された「洋学の総合大学」であったと評価する。幕府はその一年前、江戸に蘭書翻訳のために「洋学所」を設けたが、これに洋学教育の機能を加えた「蕃書調所」を開校したのは、箱館の「諸術調所」より一年遅れの安政四年のことであった。



箱館奉行所

近代郵便制度を確立した前島密などの才幹が全国から集まって勉学に励んだ。新島襄は「諸術調所」に入所したが、斐三郎の江戸転出のために直接学ぶ機会がなく、やがて箱館からアメリカに密出国する。

三八歳の武田斐三郎は、実力と数々の実績を買われて、十年間を過ごした箱館を去り江戸で幕府開成所の兵学教授となる。「開成所」は先の「蕃書調所」の後裔で、維新後の学制改革を経て「東京帝国大学」と名を改め、日本の学術文化の中枢に君臨し続けて今日に到っている。この間の経緯は、立花隆さんが「文芸春秋」七月号に詳しく書いている。

「諸術調所」の栄光を再び斐三郎という大黒柱を失った箱館の「諸術調所」は、当然ながら勢いが衰え、幕末までは何とか存続したが、維新後遂に再建されることはなかった。箱館に生まれた日本最初の「洋学の総合大学」は、斐三郎の江戸への転出とともに一場の夢となっ

「諸術調所」の教育箱館での目覚ましい働きが認められて、幕府の直臣に取り立てられた斐三郎は「諸術調所」の学頭に任命された。学生には幕臣から足軽や水夫まで身分を問わず、学力で席次を決め、語学のほか測量術、航海術、砲術などを教授した。「諸術調所」には斐三郎の学力を慕って、後に明治政府の工部卿になる山尾庸三や鉄道庁長官の井上勝、

戊辰戦争の最後の戦場であった箱館と、新政府の首府となった東京とは、その後に辿った三十年の歴史は大きく異なるが、日本で初めて「洋学の総合大学」が開かれた箱館の歴史の栄光を偲ぶ時、遅きに失したとしても「公立函館大学」の開学に大きな期待を寄せるものである。そして何時の日か「公立函館大学」が学問の成果を世に問い、優れた人材を輩出するようになることを願って止まない。

好漢！
橋本晋一君を偲んで
46期(昭和19年卒)
渡辺 保二

去る三月二十日橋本君の訃報を

奥様から聞き一瞬我が耳を疑った。体は人一倍大きく柔道、ラグビー等で鍛えた強健な体で病氣など寄せつけない健康そのものと思っていたのに今でも信じられない想いです。心からご冥福を祈る次第です。橋本君の函中時代を振り返ってみるとスポーツは万能、なかでも水泳部、柔道部で活躍していた。ロシア人を父にもつ彼は身長一メートル九〇、体重九五キロの巨体に恵まれ、柔道では三年生で早くも黒帯の三段になった。従って互角に戦える相手もおらず当時柔道部部長の石川先生をも投げ飛ばす強さであった。ちなみに昭和一八年四年生のとき明治神宮柔道全国大会に彼は北海道代表選手に選ばれ三笠宮ご隣席の御前試合で橋本君は孤軍奮闘し決勝に勝ち進んだことはまさに函中柔道部有史以来の快挙であった。このように腕力、体力ともずばぬけて優れていたが性格は至って温厚、当時も同級生の間でいじめはあったが橋本君は一度もこれに加わらなかった。ただ一度こんなことがあった。同じ柔道部の三橋君(汽車通学で昭和一年死亡)が函工(旧函館工業)の複数の生徒に殴られたのを聞き橋本君は激怒、翌日柔道部の者達と張り込んでいたところ函工の悪童連は彼の姿を見て恐れをなし早々に退散したという胸のすくよ

うなエピソードがあった。函中卒業後も好きな柔道を止められず復員後、島谷道場(亀田にあった)に通い稽古を積んでいた。そんな或る日早大ラグビー部OBの一人が橋本君に目をつけ東京からやってきた。目的はラグビー部の勧誘である。やがて彼は早稲田を受験、合格しラグビー部へ入った。同時にこれを機会に柔道からラグビーに転身、以後ラグビー人生を送ることになる。ポジションは勿論フオワードで私も学生の頃、秩父宮ラグビー場で何度か観戦したことがあるが橋本君は相手チームの二人、三人を引きずるようにしてゴールに飛び込むトライを重ねる大活躍をした。別名は「ターザン」と呼ばれ名選手として当時のラグビー界では大変な人気者であった。まもなく早大ラグビー部のキャプテンに、そして日本代表選手に選ばれ、卒業後は早大ラグビー部の監督をつとめることになった。又最近ではセコム(橋本君の勤務先のラグビー部(社会人ラグビー)の監督をやっていた。話は戻るが橋本君が通っていた島谷道場には函館小町とうたわれたミドリさんという娘さんが居た。大谷女学校の水泳部のキャプテンもやっており美人で長身のため当時函中生の憧れでもあった。そのミドリさんが或る日橋本君を慕って東伏見の早大合宿所を訪れたのである。男ばかりの荒廃無残な宿に突如大輪の花が咲いたような大柄の美女が現れたのには本人は勿論、ラグビーの猛者共はびつくり仰天、そしてミドリさんはそのまま函館に帰



(11) 東京白楊だより

中部時代の思い出

79期(昭和52年卒)
阿部 博幸

高校一年生のある日、古典の授業中に横田先生がおっしゃった。「君たちの高校生活は『はら色』だ」学校に拘束されず、自分のやりたいことに打ち込み、入試が近づくと受験勉強を始め、身の丈に合った大学に入る。函館中部高校はそういう高校なのだ。私は尊敬す

る横田先生のお言葉を信じて、「ばら色」がどんな色かも知らずに、高校時代を「ばら色」に過ごそうと思った。

一年生のときに在籍していた合唱部の思い出も、大森先生の奥様が作られたカレーの味のせいで忘れたいが、今回は柔道部にまつわる思い出を紹介したい。

良友のT・Tに「おまえは軽量級(六〇kg以下)のいい選手になる」とおだてられ、私は二年になってから入部した。世界でも知ら

れる数々の名選手を輩出した歴史ある柔道部だったが、私が入部したときには、すでに引退した三年生を除くと、善良なる部長のD・RとT・Tの二人だけだった。入部当時の私の体重は五〇kg。その後必死に筋肉を付けても、下宿屋の飯では五三kgにしかならなかった。たまに先輩たちが、受験勉強の息抜きに、我々三人に稽古をつけに来ると、私はまるでぬいぐるみのように、スッポン、スッポン投げられた。T・Tは、同志を得た嬉しさから、クラスの中心で「我々柔道部は…」と意気を揚げる口、口の悪いクラスメートから「ワラレ柔道部ではないのか」とからかわれ、返す言葉もなかった。仕方がないので、我々も笑われながら一緒に笑っていた。

私が「ばら色」の高校生活を送る反面、先生方や周囲の皆様には、大変な迷惑をかけていたに違いないのだが、本人には全く自覚がなかった。その後、「ばら色」の人生は、不惑を迎えた今に至っている。

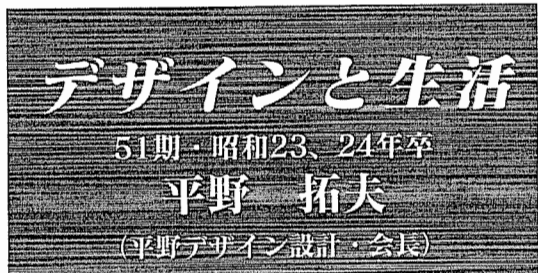
猫の絵を描いて

美術大学に入ってきたばかりの学生に「猫の絵が描ける人、手を挙げて下さい」と言うと、全員が今さら何事だろうと怪訝そうに挙手をする。早速紙に描かせると大体、猫の顔を描くものや、伏せて丸まった状態を描くものが殆どである。次に猫が歩いているところを上から見た絵を描かせると、学生達は上手く描けなくて

「なんだこれ、ねずみじゃない? もぐらに似ている。いちちとそっくり」等とワァワァと奇声をあげる。つまり、「猫の絵」というものが既成概念の中で知っているパターンだけでイメージされており、自分では描けるつもりでいるのだが、猫が歩いている状態を上から見下ろしたことのな

い人はいないはずなのに、そのパターンが概念の中にないため戸惑うことになる。

デザイナーを考える時は、まず意志があり、次にその対象物を知るためによく観察をする。そして、それをあらゆる角度から分析し、いろいろな要素を抽出して、自分のイメージと練り合わせる。これは、文



学・芸術・科学等の創作や研究活動の基本的プロセスである。創作活動で最も大切なことは、この「知っているつもり」の既成概念の打破なのである。この「知っているつもり」の曖昧さによって普段の生活にゆとりと潤いができるが、デザイナーが意志を持って創作する場合には、その対象物について謙虚に観察し研究しなければ、中身が薄く魅力の無いものになってしまう。

例えば、ピカソはよく闘牛の絵を描いているが、牛のことを知り尽くしているにも拘わらず、彼は新しい絵を描く度に数多くのスケッチをしたと言われている。勿論、日本の巨匠も、一羽の雀の絵を描く時に「雀百態」を描く作家が多い。デザイナーを考える上で最も大切なことは既成概念を打破し、その対象とするものをよく知ることである。

(毎日新聞掲載記事より)



松戸でビールを飲もうよ! 72期(昭和45年卒) 谷口 雅典

第三回「函中松戸会」を六月六日開催、総勢九名の小さな集まりでした。あれは一三年前、三七期室谷さんの冒頭の「ビールでも…」の電話での一声で、同期の笹川夫妻(現神戸市在住)の協力を得、九〇周年名簿を頼りに一六名参加で、発会しました。当日の年齢差は確か五三歳と記憶しております。途中一二年の空白がありまして、五一期 小野寺幹事の音頭の元、昨年六月一四日久々に今回と同じ九名の集いでした。皆、自称「万年青年」です。今後

も年一度位、松戸在住者で継続したい所存です。誌面を借りまして、開催案内が届きましたら、是非ご参加下さい。特に若い世代のご出席を切望、一度覗いて見て下さい。お気軽に。旧制優等生から、新制劣等生(当方)迄人材豊富な会(集まり)です。

★「函中松戸会」を主催する室谷邦雄さん(三七期・昭和一〇年卒)は週刊文春の「待ってました定年」のコーナーにも取り上げられたりして元氣印いっぱい!!八十歳の大先輩です。朝日新聞「街模様」の一文で室谷先輩の人となりを紹介致します。

世話役に徹する面白さ

七十歳を過ぎたとき、一人で七千人の同窓会の名簿作りを背負い込んだこともある。名簿作りといっても、十七年前に廃校になった函館市立常盤小学校の卒業生の消息確認作業だ。母校でもある。学籍簿から、地元の電話帳で住所を調べ、出郷者は新聞の消息欄、伝

すから…。来年も「松戸でビールでも飲みましょう。」写真は第一回開催の時の物です。尚、案内漏れが生じている方がありましたら後記へご一報下されれば幸甚です。

〇四七(二三八) 〇四八六 小野寺吉彦様迄



言板を利用。函館に何度も行き、約半分の消息を確かめた。

又、ある時、松戸駅で見た硬式テニスの同好者募集に応募、いつの間にか初代会長に。その後、高齢者だけの「フレッシュテニスクラブ」を創設、いずれも世話役で会長。市民テニスの世話で長年がんばった、と三年前に日本テニス協会から功労賞を受けた。

他人の世話で留守がちな室谷さんに、妻英鈴さん(七三)は、さぞや不満だろうと、聞いてみた。答えはこうだった。

「粗大ゴミになって、家でゴロゴロされるより、よほどいいですよ。稼いではきませんけど」

インターネット・ホームページが開設されました。

さあ、アクセスしよう!!

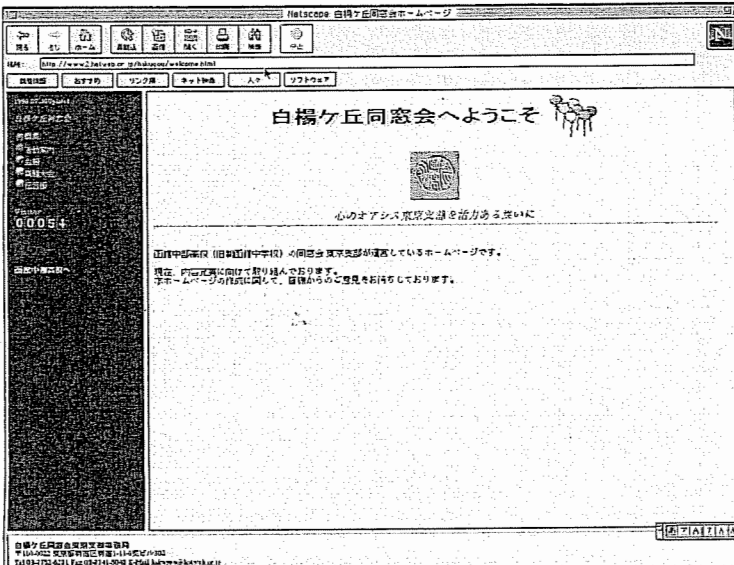
白楊ヶ丘同窓会東京支部 ホームページ開設

昨今のインターネットブームに乗り遅れないように、当同窓会もホームページを開設しました。同窓会の紹介、活動案内などを特に今後の若い世代を中心に広くアピールしていければと思っております。

当面は、情報伝達を中心としたホームページになりますが、皆様からのご希望を反映させながら、同窓会ならではのユニークなホームページ作りができればと思っております。

ぜひ皆様からのアイデア、ご意見など、お待ちしております。メールアドレスは以下のとおりです。インターネットのサービスパロバイダは地元函館の「HotWeb」(株)エヌイーシーを利用しました。

担当 副支部長・高橋 政章(79期)



★E-Mail:hakuyou@hotmail.or.jp ★URL:http://www2.hotweb.or.jp/hakuyou/

「パソコン研究部」近況

顧問 関川準之助

「学校のホームページをパソコン研究会で作る許可をもらったから、みんなで作ってみたいか?」

「面白いですね。やりましょう。」
昨年五月、連休明けのこの会話でホームページ作りはスタートしました。

平成十二年度までに全ての公立学校でインターネットへの接続が出来るようになる、と報道されていますが、道立高校に設置されているパソコンの更新サイクルは五年となっており、本校のパソコンは旧式のDOSマシンでインターネットとは無縁です。

そこで、私が個人的に加入している地元のプロバイダ(接続業者)にお願いして、無料でホームページを設置させてもらうことにしました。

以来、学校のパソコンで部員がデータを作成しフロッピーディスクに入れ、それを私が地元業者に運び業者のサーバーに登録してもらい、という作業を、試験の合間をぬいながら、時には休みの日に登校して行いました。

ホームページとは言っても技術的なことはさておき中身は新聞です。本校は三年前に百周年を迎えた伝統校ですから、ありきたりの学校紹



wysiwyg://6/http://www.hotweb.or.jp/kanchu/

介ではなく、過去と現在の生徒の姿を対比させてみようというアンケートによる生活実態調査など載せてみました。また、本校に長く勤務している先生方からの生のメッセージが聞ける「OB・OGコーナー」や、自由に感想などを書き込める「掲示板」なども用意しました。

その結果、ちよっと出来過ぎですが、目標としていた朝日新聞社主催の「スクールページコンテスト」に入賞し、めでたく部へも昇格することが出来ました。

朝日新聞全国版に紹介されたためか、米国や豪州在住のOBからも激励のメッセージが寄せられ、インターネットの威力を改めて感じています。

さらに今年六月、白楊ヶ丘同窓会東京支部副支部長の真船昭氏にご来校いただき、東京支部からパソコン研究部への助成金二十万円を頂戴しました。これは、現在のホームページ作成環境が余りにもみすばらしいので、何か援助してやろうという東京支部のご厚意によるものです。

パソコンを自作することも考え

ましたが、今は直販メーカーから購入した方が割安だとわかり、早速、高性能のマシンを購入し、使い始めています。大切にに使わせていただきます。ありがとうございます。

最後に、今年度のホームページの企画についてご紹介します。テーマは「函館の魅力を探る」。中部高校の生徒は、卒業後はほとんどが函館の街を離れます。そして大学卒業後もこの街に戻って暮らすことは殆んどありません。辻仁成(函館西高校卒)のように、多感な青春時代を函館で過ごし、遙か離れた街から望郷の念を抱き続けている人も多いようです。そこで、生徒たちが現在住んでいるこの街の魅力を改めて考えてみようと思います。

そこでお願いです。場所や物、エピソードなどで

- ① 函館で、この場所が大好き
- ② 函館に来る人にはここを見てほしい
- ③ 函館の××はどこにも負けない等々を、ぜひ教えて下さい。

部員たちがちやんこで実際に足を運び取材し、写真と文章で紹介いたします。市販のものとは一味違ったガイドブックを目指そうと思

います。
昨年活躍した三年生部員も先日終了した白楊祭を最後に引退し、現在アクティブに活動しているのが二年生一名、一年生三名の計四名で、取材等に人手が足りないのは否めませんが、今後とも精一杯活動しますので、応援をよろしく願います。

36・37期・合同同期会

(昭和10年卒)

室谷 邦雄 記

昭和十年卒、三七期の在京仲間
は年一回同期会を開くのが恒例と
なっているが、今年是一年先輩の
三六期の方々に誘い、五月二十三
日(土)港区六本木の日銀鳥居坂
分館で昼食会を開催した。

参加者は我々函中在学三年生頃
着任した藤沢市在住の萩原獅郎先
生はじめ次の方々であった。

・三六期三名・秋濱晴彦、出町
卓、松原竹造

・三七期七名・浅野増太郎、加藤
孝一郎、釣谷光博、福田次助、

松本侘、室谷邦雄、米田元輝
高齢になると同期生がだんだん
少なくなるので、同じ頃在京した
二、三期の期が合同で同期会を開くの
も意義があるように思う。怖かった
先輩が時の経過とともにやさしく
身近な存在になっており、今まで知
らなかつた学生時代のエピソードな
ど飛び出して話は尽きなかつた。

第43期・函中一六会

(昭和16年卒)

井筒 吉彦 記

札幌支部例会に出席して

五月一日、われわれ函中一六
会札幌支部の例会に函館支部の高
橋信君とともに参加した。

同期の仲間は現在札幌支部に約
三〇名所属しているが、当日の出
席者はわれわれ二名を含めて僅か

十二名であった。

出欠の回答ガキに記載された
近況を幹事がB4判三枚に集約転
載してくれた「近況一言たより」
を見て、本人か奥さん、または
二人とも病氣療養中と記載してあ
るのが多く目につき、身につまされ
る思いを禁じ得なかつた。

しかし、富田支部長挨拶、町野・
児玉両幹事の経過、会計報告と議事
に引き続き高橋信君の首頭によ
る乾盃の後、懇談に入ってから、
六〇年以前の腕白時代に帰ったか
のように談論風発で、時間の経過を忘
れて、これが喜寿を目前にした老人
達とは思えない雰囲気であった。

やがて、校歌(現同窓会歌)を全員
で斉唱し、今後の長生きと再会を約
して解散したのは夜八時、全員揃っ
てそれぞれのねぐらへ(どこにも寄
らずに)帰って行った。

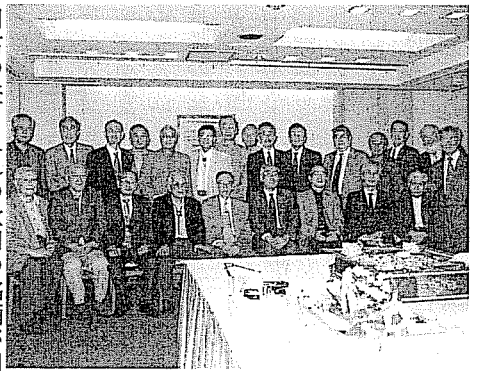
第45期・翠楊会

(昭和18年卒)

田沼 修二 記

翠楊会東京支部の集まりは、例年
二月に開いていたが、今年から気候
の佳い時期を選んで、四月二十五日
(土)正午からNHK青山荘で開催。
函館本部から越田会長、杉目幹事長
も参加して二十五名が顔を揃えた。
会は鬼籍に入った級友に黙祷を捧
げ越田会長の挨拶に続いて杉目幹事
長の首頭で乾杯して歓談に移った。

話題は函館や札幌の同級生の消
息お互いの健康や家族の話、郷里
函館の深刻な経済不況等など。川



田君の差し入れの秋田の銘酒が回
り始めると、何度も繰り返される
五十五年前の腕白時代の思い出話
に華が咲く。

最後に翠楊会の総会を、久しぶり
に東京で開いてはどうかという提案
があり、本部の検討を待つこととし
懐かしい校歌を斉唱して閉会した。

47期だより

(昭和20年前期卒)

松村 豊 記

古希の歳を、過ぎようとしてい
ます。在学の後半から、戦争に突
入した時代を経て、終戦、食料難、
通貨凍結など、今と比べてみれば、
「酷かった」の一言の時代も、半世
紀を過ぎて、世の無常を感じさせ
ます。そういうえば結核に罹った人
も多かったな……

例年、四七期の同期会を、四月七
日に開催していますが、今年は二十
七名の最多の出席になり、昔の悪童
にかえりタイムトンネルのなかで、

時の経過を忘れてしまっていました
た。例年札幌から参加の成田兄が、
「札幌雪祭り」のTVに出て、「スキ
ー・ボードに挑戦する」と宣言、そ
の後、骨折したので今年は欠席する
旨連絡がありました。曰く「年寄り
の冷水はいかん」。

それにしても、食料事情の悪かつ
た頃に思春期だったし、栄養も行き
渡らない育ち盛りの時代を経験して
きた私達でしたが、よくぞまあ元氣
にこれまで生きてきたものです。来
年の再会を楽しみにしています。

東京九十九会から

(49・50期・昭和21・22年卒)

伊東 克朗 記

M・N君へ 元氣か。今年も、
東京九十九会の時期になって、昨
年貴兄がわざわざワインを提げて
函館から駆けつけてくれたこと思
い出している。

函館の本部総会はもちろん、札
幌・東京・関西と、全国を網羅し



て毎年クラス会ができるようにな
ったのは、永年こつこつと名簿整
備をしてくれた貴兄のお陰だと、
皆が感謝している。

ただ、昨年は担任だったオモチヤ
こと菊池先生が亡くなり、仲間も毎
年二人三人と欠けて行くのは世の
習いとは言いながら、言葉には表せ
ない痛みとしか言いようがない。卒
業五十周年は終わったが、来年は古
希祝いの総会をパァーッとやるよう
に函館の連中に提案するよ。

近く東京九十九会の案内をする
ので、元氣な顔を見せて欲しい。持病
の腰痛には十分気をつけて、いつま
でも俺たちのMさんであって欲しい。
ご多幸を祈る。

第51期・あずまし会

(昭和23・24年卒)

三國比左男 記

今年のあずまし会総会・懇親会
は、四月十八日(土)午後五時か
ら千代田区二番町の「東京グリー
ンパレス」で行われた。会員一九
名のほか函館から「どんじり会」
会長西村源太郎君と幹事納代正信
君が、十月十一日の卒業五十周年
函館大会への多数の出席を呼びか
けに参加、また昨年引き続き庁
立高女OG有志三名が参加し、華
やかな会になった。

総会では次回の卒業五周年大
会開催が議題となり、五年後では
欠ける者も出てくるだろうからと、
ほとんど古希に達している二〇〇
一年に、東京(あずまし会)担当

で開催することが決定された。

懇親会は毎回金沢から参加してくる平塚喜二夫君の乾杯で始まったが、立食パーティ形式だったので賑やかな交歓に終始し、またたく間に三時間が経過してしまい、本日の出席会員は全員函館大会に参加しようとして散会となった。

同じフロアの「スターライト」に場を移しての二次会にも二〇名が参加し、強制的に一人一曲ずつ唄わせられるなど大いに騒ぎ、宿泊組はさらに居座って三次会と存分に楽しんだのであった。

同期会を奈良で

(54期・昭和27年卒)
佐藤 正郎 記

平成十年五月三十一日、ピーカンの奈良。共済会館「やまと」に善男善女が群れる。「しばらく」「元氣？」入口で幸子さんに会費を払わなければ室には入れないのである。

去年の同期会で「たまには関西で」との声があり、直ちに奈良に決定した。そして今日、幹事は常任の博子さんと関西在住の岡本、宇野、滝本、小林君と幸子さん。参加者は東京だけではない。札幌・函館・静岡・島根・福岡からの顔もある。「オレ関西での会が良い。孫に会える。」と静岡からの健君。「オエ動機が不純だぞ。」島根からの鳥居君は単身赴任の任職。亀田の山本任職は今年も夫人同伴である。

大広間に男十六人女十四人が顔を揃えた。出席者名簿にはクラス名が記載。製作者は宇野君に違いない。彼は昔からマメで几帳面だった。まずはクラスごとに前面に並んで近

況報告。髪や顔かたちには私応に年齢が表現されているのに、気分は一瞬にして高校生である。

やがて席が乱れ、盛り上り、また乱れる。「ミッチちゃん、中部時代の話聞いたぞ。」「あら、どんな?」「ミチコを巡る三人の男。」「えっ、ウフフ。」隣に岡本君。「なぜ奥さんを連れてこない。オレ彼女のファン。」青森でのネプタ同期会に岡本君は夫人同伴で出席し、彼女は私の文書を激賞してくれたのである。「わかったわかった。美幸は連れて行く。同期会のあと旅行が恒例の四人組(純子・幸子・京子・照子)は、奈良に居座るといふ。仲江さんは札幌から。」「矢尾板さんは?彼女絶対行くと言っていたのに。」「風邪をこじらせたんだって。残念がつた。」「それから十日ほどして矢尾板さんの訃報に接した。何が起るかわからない。

「酔っぱらわないうちに記念写真を撮ろうよ。」と常に冷静な博子さん。「オーイ集まれ。」「シャッター押すヤツを探せ。」騒々しいが動作は機敏な五四期はすぐに整列する。シャッターの後で宇野君から声がかかる。「二次会のバーは徒歩十分。会費は四千円ですが、半分は岡本幹事長がもちまゝす。」拍手と歓呼が大広間に響きわたった。

来年は東京。一人も欠けず、もっと多くと顔を合わせたい。いや、必ず合わせようじゃないか。同期会は共有する青春の単なる回想ではない。それを通して、「生きる」と「への玄妙な彩りと活力を創造するのだ。幹事部屋での三次会。宗教論・国際経済論・雑談・冗談が何の脈絡もなく交錯するなかで、

しみじみそう思ったものである。

ニッパチ会

(55期・昭和28年卒)
栗崎 健一 記

「今年の会場は、銀座七丁目にはイグレードなスペースを構える、会員制クラブの名門「エスカイヤ・クラブ」です。美味で豊富な量の食卓に旨い酒、それになによりもまして懐かしく、心休まる古き友らとの懐旧談、普段日常では思いも浮かばなかった往時の事柄が、彼の、彼女の顔を見た途端、まるで無声映画のトーカーを廻したかのように目の前に蘇ってくる……」

いつもの事ながら、嬉しい懐かしい楽しいひとときを、みんなで過ごそうではありませんか! (同期会開催案内一節)

このところ参加者がやや低調故、一人でも多く参加して欲しいものと、阿部健君の紹介で、銀座の会員制クラブを会場に選んだのが奏功したのか、予想を遥かに超える三十三名の同期の桜が参集した。予想を十名以上も上回る盛況に、幹事一同ただただ感謝感激したのであったが、予約部屋が定員オーバーの満々席となり、立居振舞いがやや窮屈になったのは嬉しい誤算だった。ただしその為、サービス嬢のパニール達も露わな若い肢体が目前に迫り、男性諸氏の目の保養を倍加したのも確か! (女性たちには不評の声あり? 幹事反省!)

来いつも暖かい目で我々の活動を見守っていて下さる青野先生を囲んで、一時の至福の時空を共有する事ができた。二次会での時間も瞬く間に過ぎ、来年の再会を約して散会に至ったが、来年の再会までの間にも有志でのゴルフ、飲食会、一泊旅行等を随時開催し、自身の濃い同期会にしていこうと、一同ますます意気さかんなどころを見せたのであった。

第57期同期会のお知らせ

(昭和30年卒)
水江 晋一 記

還暦を過ぎてから、われらが五七期の同期会の開催数は、とみにペースアップしてきました。逢えばたちまち数十年もタイムスリップし、青春時代の現実に戻れる不思議さが、皆を寄せ集めるエネルギーになっていようです。

「GOGO会」と称するゴルフ愛好会は、年に一回のコンペを続けています。(武田、松田両君の幹事)

また東京の同期会は、今年三月に渋谷で四十名近くが集まったばかりですが、こんどは、十一月一日・二日の日程で左記のように全国大会が企画されています。

これは、函館、札幌、東京の順序で毎年全国規模で同期会を持つことが、「自分達で還暦を祝う会」で一昨年、議決されたことによるものです。

十一月一日(日)シンフォニー・サンセットクルーズ(東京臨海副都心の夜景を楽しむ船旅)
十一月二日(月)船橋カントリークラブ

観劇(歌舞伎座、帝国劇場) 名簿により全員に日程を発送しましたが、不明、転居など(二)通近く戻っております。通知の来ない方は、千葉県我孫子市我孫子二六四水江晋一まで、「一報下さい。」

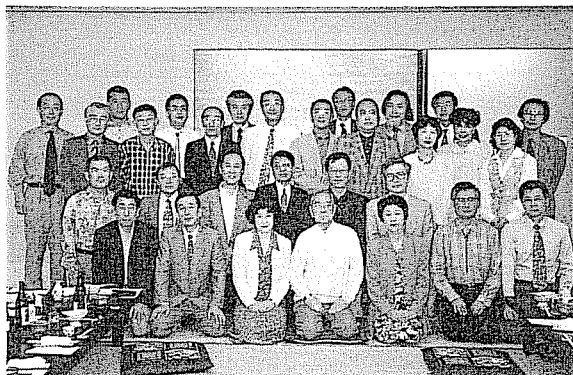
三五会・横田先生を迎えて

(62期・昭和35年卒)
池上 拓磨 記

六月六日、やや梅雨寒の一日であったが、函中三五会が新宿で開催され、二十九名の同期生が集った。今回は幸運にも函館から横田先生にご出席いただく機会がもてた。

先生は八十一歳になられたとの事であるが、大変お元気で若々しく、教え子達との再会をとて喜んで下さった。

先生の教え子は七〇〇名を超えており、函館の先生宅を訪ねる人も多いと聞く。「生徒達にとつては二年に一回の訪問であったとしても、僕にとつては毎日のことだ(?)ま



(15) 東京白楊だより

さに教師冥利に尽きる」とのお話もあり、昔のドンさんの授業の名調子を思いだした。

高校時代の話となると、長恨歌、百人一首等、漢文や古文で苦勞したことや、先生には意外と(?)良い点数を頂いたと、酔った勢いで語る者等、授業での一シーンを語る面々が多く、聞いていていつしか三十数年前の函中時代の幼き日々の自分に帰った。

私には先生から頂いた宝物がある。それは、卒業時に先生が送って下さった、励ましのお手紙と色紙である。

「その身直ければ、影もまた直し」の先生の書が壁から私に語りかけ、三十数年、私を守って下さった。そう思っている人は私だけではなく、きつと大勢いるに違いない。

東京地区三五会事務局

(62期・昭和35年卒)

八田 邦夫 記

東京地区三五会は六月六日(土)梅雨寒の一日でしたが新宿モノリス二九大島の部屋で、横田先生を迎えて暑く燃えて興奮しました。

この日は、出席予定者一九名全員が集まり、玉川修君の乾杯の音頭と横田先生のご挨拶で開宴し、それぞれ一組の方から順番に挨拶・自己紹介・近況報告がありました。先生は三〇分程度が限界という体調でしたので、先生を囲んで記念写真を撮り大変残念でしたが途中で退席となりました。

今回の出席者の中には三〇数年振りの再会もあり、やはり同期生のよしみで話しはどんどんはずみ

ました。次回にはもつと大勢の方々と再会したいと思えます。今回横田先生のご出席に際し三年五組の皆さん、特に池上拓磨・玉川修両君のご協力に深謝いたします。これから、まだまだ続けてゆきたい三五会ですので皆様のご協力、ご支援をよろしく願います。

次回は、今年の忘年会を兼ねて二月五日(土)を予定しています。また、来年(一一年)には函館で合同の三五会を開催したいとの希望も出て、出来たら具体化したと考えています。皆さんのご意見をお聞かせください。

第63期・午末の会

(昭和36年卒)

小林 嘉則 記

この景気低迷の時代にあつて一番の渦中にあるのが我々の年代ではないだろうか。定年を迎える前の何ともややこしい立場にあつて、夫々に問題をかかえている様だ。そんな中にあつて就職浪人中にもかかわらず出席してくれたU君に拍手をしたい気持ちで同期会を催した。

午末の会も十六回目、いつもの七月第二週土曜日の十一日、有楽町のニュートーキョー桃杏楼に集合。越後谷宏君の進行役、山崎良英君が乾杯の音頭で始まった。

今回は開催の案内ハガキがいつもより多くもどってきたこともあり、移動、転居が激しくなっていることが察しられる。返事がもどらないのも増えている。「あまりにも業績が悪く嘆くというよりは笑ってしましますよ」とお手上げ状態のスピーチまでであり、それでもわざわざよくか

ら参加してくれた日さんに大きな拍手。まあいろいろあつてもガンバっていきましようという掛け合う。そして今年もまた旅行会をやりましようとする幹事の依田君がプランを発表。十一月二十一日(土)琵琶湖に泊り京都の紅葉を味わう十三回目の旅行会です。ぜひ関西方面の方は参加して下さい。

宴もたけなわそろそろ全員写真を撮ろうとしていた矢先、六年後輩の梅田やよいさんと札幌から来ていた安藤牧子さんが先輩達にと挨拶に来てくれた。彼女たち六九期も今日が同期会でも顔を合わせるとニュートーキョーの常連組。安藤さんは石狩の植物を描いて文部大臣賞を受賞したこともある植物画家さん。ステキな後輩が訪ねてきてくれて嬉しい場になりました。

五時半一次会終了。二次会もいつものピヤホールミュンヘンに移動。合流した三名を含めわいわいガヤガヤの三時間もあつという間。



それでも今日は早い時間の始まりのせいで三次会のワインバーに入ったのが九時頃。電車の時間に余裕のある十名程が残った。

今年には特に人数が少なく、寂しい感じがしないではないが、もう少し状況が良くなれば出てこれる様になるだろう。年金生活までにはまだまだ早く、ガンバラなきゃいけない年代であることを実感した今日の日だった。

函中三八会

(65期・昭和38年卒)

菅原 大作 記

今年の函中三八会は、七月四日(土)、午後六時より、東京・千代田区九段北の『百珍亭市ヶ谷店』で行われた。

同期会は、昭和五二年以来、毎年一回、この時期に開催している。当初は、二七人の予定であったが、飛び込み参加があり、女性九人、男性二二人の計三一人が参加した。今回は、札幌、盛岡、清水、神戸市からの参加もあった。参加者には、例年と同様に欠席者から届いた近況報告と、最新の住所録を印刷して配布した。

午後六時開宴を予定していたが、『函館時間』での到着が多く、来た順番に飲み始めたため、全員が揃う頃には出来上がる人も。宴の開始は、結局午後七時近くになった。これまで毎年のことでもあり、各自報告することがなければ改まったあいさつは不要ということ省略していたが、今回は、卒業以来三五年振り、あるいは高校時代は直接話したこと、同じクラスになったことも



なかつたなどという人もおり、全員に自己紹介を兼ねたあいさつと簡単な近況報告をしてもらった。近況報告の間、用意した卒業アルバムの写真と見比べながら話を聞いている人が多かつた。

皆、酔いが回ってくるともに会場全体が盛り上がり、顔を寄せ合わなければお互いの話が聞こえない程。席を交代しては、それぞれが高校時代に戻って、恩師の思い出や授業中のエピソード、修学旅行や部活動、クラスメイトや遊び仲間のことなど話し合う一方、最近のお互いの仕事や家族のことなどを話し合っていた。

午後九時過ぎ、記念撮影し、次回の再会を約束して閉会となった。しかし、なおも別れがたく二十数人が二次会へ。二次会では、高校時代には歌を歌ったことがなく、また下手だと思われていた者に限って熱唱するカラオケショーが続いた。



会員短信

ムッセージ

(平成九年九月以降)

◇和田 貞一(故)(24期・大11年卒) 親睦大会は毎回楽しみに出席しておりましたが、このところ腰を痛め彼岸過ぎまで入院加療中の為、残念乍ら欠席。皆さんよろしく。上半身は達者です。

◇田熊国太郎(33期・昭6年卒) 「東京白楊だより」を拝読、暫く函館の思いに出入らせて頂きまして。ありがとうございます。宮城支部の存在を初めて知りました。

◇木原 芳男(34期・昭7年卒) 「東京白楊だより」懐かしく拝見しております。私共「東京銀湯会」も年々減って淋しい限りです。私も足が弱ってきましたが未だ元気で。

◇佐々木孝允(35期・昭8年卒) 残念ながら支部大会と環日本海駅伝行事と重なり、日時に支障し参加出来ません。不悪。(中国語通訳)

◇数越 甲平(35期・昭8年卒) 激動の80余年をよくぞ生き抜いてきた。我が生涯を顧みてまさに感無量。

◇三国 栄徳(36期・昭9年卒) 老木の朽ち果てる日遠からじと覚悟しつつ老醜をさらして余生を送っている。後輩諸氏の御健勝と御活躍を祈る。

◇藤井 昇(36期・昭9年卒) 大阪支部が出来、今回九月六日に第二回総会盛大でした。小生の場合今後大阪支部所属になり、同期会だけ東京所属になると思いますが？

◇佐々木八郎(36期・昭9年卒) 体調不良のため大会には出席できませんが、現在趣味を生かして、近くの調布市調布ヶ丘地域センターで書を教えます(月二回)。

◇古谷 義明(37期・昭10年卒) お世話になっております。なんとか元気でやっております。

◇米田 元輝(37期・昭10年卒) 東京白楊だより第二十号拝読しました。編集発行のご努力ありがとうございました。

◇浅野増太郎(37期・昭10年卒) 東京白楊だより第二十号は大変素晴らしい出来映えでした。編集の皆様のご苦労に感謝いたします。各期の皆様、これからもどしどし投稿されて、白楊だよりを盛立ててゆこうではありませんか。

◇柿本 大志(38期・昭11年卒) 今回いただいた東京白楊だよりの第二十号会員短信に小生の名前、松本大志は柿本大志の誤りです。多分同期の者の幾らかの人は気が付くと思いますが、念の為御通知申しあげておきます。今年八月函館を訪問、母校を拝見して感激一入でした。五稜郭のホテル・シエナに宿泊、五稜郭公園などを見学しました。

◇加藤 義夫(39期・昭12年卒) 現在健康を害して居り、残念乍ら欠席させて頂きます。盛会をお祈りします。

◇佐々木忠男(39期・昭12年卒) 先日支部大会の出欠の返事御送り致しませんでした。小生一昨年の夏軽い狭心症様の発作がありました。その後元気に暮らしております。皆様よろしく御伝え下さい。

◇椿田 和彦(39期・昭12年卒) 西宮市と神戸市の二重生活をしていまして、お返事遅れて申し訳御座いませんでした。同窓会には欠席しますが、今後共よろしくお願ひ申し上げます。

◇畠山 勢(39期・昭12年卒) 病氣のため会への出席は当分不可

能です。会費納入しない方には会報送付等を中止し、会費を値下げすることを希望しますがだめですネ。

◇今井 清(40期・昭13年卒) 東京白楊だより第二十号楽しく拝見いたしました。

◇若山 孝二(40期・昭13年卒) どうやら元気で生活しています。但し、足ヒザの関節を悪くし、歩くのに不便をしています。皆様よろしく御伝え下さい。

◇富田 朝彦(40期・昭13年卒) 益々充実ご発展をお喜び申し上げます。

◇上田 孝(41期・昭14年卒) 九月より入院中でしたので遅くなつて申し訳ありません。

◇小山田 彰(42期・昭15年卒) 毎日一時間以上歩き続けることに生きがいを感ぜ、生活の中に新しい発見を求めて、老い込まないよう努力して、有意義に過ごしたいと思ひます。

◇田沼 静一(42期・昭15年卒) 函中を卒業したのが一九四〇年でしたから、五七年も前のこと、茫々たる過去ですね。今フツと思ひ出したのは、函館工業高校の裏の田圃の畦に点々と咲いていた水芭蕉の花です。

◇眞田 良人(43期・昭16年卒) 体調悪く欠席致します。又今秋の大沼での同期会にも参加できません。

◇有田 正也(43期・昭16年卒) 老齢になり種々の名譽職(会長、理事)で多忙な毎日を送っています。

◇小山 俊介(43期・昭16年卒) 体調が勝れず遠出が出来ないありさまなので、残念ながら欠席します。

◇寺井 章(43期・昭16年卒) 第二十一回東京支部大会は欠席いたします。冷夏予測が完全に覆えり猛暑続きの夏で少々バテ気味です。腰の調子も今一つスッキリしないのは残念です。同期の井筒兄には大変お世話になつており感謝しています。

◇神山 茂郎(43期・昭16年卒) 返事遅れて申し訳ありません。

香港に一時で住んでおります。

◇油野 義明(44期・昭17年卒) 元気で過ごしております。

◇今岡 貴(44期・昭17年卒) 小生の宛先の名前が貢でなく貴です。御訂正下さい。

◇浦田 常治(44期・昭17年卒) 「おおきくなつたら」(中田喜直作曲)が東京書籍刊行の童謡唱歌大系(明治から現在までの後世に残すべき名曲一三〇〇曲)に掲載、「ぴーちやんぴーち」七月虎ノ門ホール、楽譜金の鳥音楽協会。

◇高倉 隆(44期・昭17年卒) 同窓会のニュースやお気配り、いつも有難う御座居ます。厚く御礼申し上げます。体調もよく元気に毎日を過ごしております。会の御隆盛を祈念しております。

◇井上 義一(45期・昭18年卒) ご無沙汰しております。皆様よろしくお伝え下さい。

◇佐藤 誠悦(45期・昭18年卒) 内視鏡、白内障施術、CT、MRI とリフレッシュして吾が夏終りぬ。

◇池田 隆治(45期・昭18年卒) 「東京白楊だより」で東京や各地の同窓会の盛会の状況を知り、うれしく思ひます。

◇石田 孝三(47期・昭20年卒) 光陰矢の如し、古希を迎えました。が気は盛々、家内はじめ一族皆元氣。諸先輩はじめ皆様よろしく。

◇岡本 尚久(47期・昭20年前期卒) 昨年十月、八年振りで函館より戻つて参りました。よろしくお願ひします。

◇篠田 作衛(48期・昭20年後期卒) 東京白楊だより第二十号も面白く拝読しました。今年函館で五稜郭に類する水城都市の世界会議が持たれた由、今回の渡辺先生の講演や田沼先輩ご紹介の「海峽の光」とも符合して、改めて故郷の歴史を強く思い起こしました。皆様との昔話を愉しみにしております。

◇矢本日出男(49・50期・昭21・22年卒) 幹事の方々の御苦勞に感謝致し

ます。仲々機会が取れず出席出来ず申しわけ有りませぬ。時々都外近県にの会はいかがですか。

◇寺井 滋(49・50期・昭21・22年卒) 卒業五十年、全く早いものです。しかし、在学中の諸事につき、結構記憶に焼き付いています。函中は心ふる里と言えます。(先生の紳名は最たるものです)

◇長島 康(52期・昭25年卒) 事務局の皆様いつも本当に御苦勞様です。厚く御礼申し上げます。

◇手塚 泰彦(52期・昭25年卒) 平成九年度末をもって東京支部を退会させていただきます。(関西支部が設立されたため)

◇進藤 照子(53期・昭26年卒) 幹事の皆様のご苦勞を知りながら忘れた頃に会費を払いまして恐縮に存じて居ります。六十路を足早に過ぎして居る私、横浜生活四十年になりました。M21街区の変り様はすばらしく、横浜港から吹く風と空気が私をホットさせてくれます。一病息災、元気で居ります。

◇神尾 博子(53期・昭26年卒) 事務局の皆様にはいつもご苦勞様です。本年もよろしくお願ひいたします。

◇入江 宏子(54期・昭27年卒) いつもお世話有難う存じます。皆様の御健勝をお祈り致します。

◇鳥居 久靖(54期・昭27年卒) 名前が久靖となっておりますが、久靖です。で間違いない様に。

◇露木 敏子(55期・昭28年卒) 東京支部大会について残念ですが欠席いたします。よろしくお願ひします。

◇森 康美(55期・昭28年卒) 会費未納のままにうちすぎいておりますので、上記金額(一〇、〇〇〇円)で納入します。よろしくお願ひいたします。

◇濱田 實(57期・昭30年卒) 前略、過日は白楊ヶ丘同窓会親睦大会で大変お世話になり有難うございました。またこのたび特別賞の

じやがいもを頂戴いたし重ねて御礼申し上げます。今後ますますの発展を祈念いたします。一言御礼まで。

◇寺田 姉生(57期・昭30年卒)
いつも欠席で申し訳ありません。

◇堀江 郁子(57期・昭30年卒)
終身会費を決めて払込出来まますようにぜひお願いいたします。毎年とはとてもめんどろです。

◇櫻庭 晃(57期・昭30年卒)
バスケットボール部OB、OG会設立総会が八月九日にあり出席してきました。今回は出席できませんが、皆様によりよくお伝え下さい。

◇兼平 巨(57期・昭30年卒)
平素は大変御無沙汰しております。会費納入が遅くなりまして申し訳ありません。「東京白楊だより」を楽しく懐かしく読ませていただきありがとうございます。東京支部の益々の御発展を祈り上げます。

◇佐藤 健(58期・昭31年卒)
今年前は前回の同期会を世話してくれた飯浜君が亡くなり、大変淋しい思いをしました。一方東京白楊だより第二十号に北大時代お世話になった高島巖先生(51期)が札幌支部長として御活躍中の記事と写真を見せ、大変なつかしく、またうれしく思いました。来年還暦を迎えますが、まだ現役でがんばろうと思つて居ます。

◇唐沢フミ子(58期・昭31年卒)
東京白楊だより二十号たいへん懐かしく読ませていただきました。ありがとうございました。

◇大関千恵子(58期・昭31卒)
ご無沙汰いたしてございます。趣味として茶事おけいこにいそいそしております。皆様にご鳳声下さい。

◇上平 慶一(60期・昭33年卒)
昨年末に五七歳定年となり、第二の職場に移りました。それを契機に生涯学習の一貫として社会人向け大学院に入学、若い諸君と共に学生生活を楽しんでいきます。

◇岩崎 英子(60期・昭33年卒)
いつもお世話様です。

◇伊藤 紀子(60期・昭33年卒)
東京白楊だより、楽しく読ませていただいております。五十を過ぎてから時代小説にはまってしまいましたので、藤沢潤平が亡くなられがっかりして、います。

◇峰岸多美江(60期・昭33年卒)
会費納入遅くなってごめんなきい。どうぞよろしく。

◇谷沢 洋子(63期・昭36年卒)
いつもご連絡くださってありがとうございます。元気でおります。

◇柳生 芳枝(63期・昭36年卒)
いつも格別の御厚情ありがとうございます。

◇島田 栄(63期・昭36年卒)
老齡期まであとわずか、第三の人生はすべてをチャレンジととらえて、課題にチャレンジしていく方向へチャレンジしていくチャッチャッチャッチャッです。

◇佐藤 智樹(64期・昭37年卒)
いつもお世話になっております。

◇谷岡 豊(64期・昭37年卒)
平成九年七月より中部電力から中部計器工業経営部企画担当へ出向となりました。

◇佐々木好文(66期・昭39年卒)
会報ありがとうございます。皆様のご活躍に触れることが出来、高校時代のことを思い出しました。

◇林 睦子(66期・昭39年卒)
御苦労様でございます。会費遅れて申し訳ございません。

◇笠原 利宏(68期・昭41年卒)
幹事御苦労様です。

◇川上 一美(68期・昭41年卒)
いつもお世話になりありがとうございます。

◇石川 法子(68期・昭41年卒)
たまに同窓会に出てみたいと思つて居ます。帰省の車窓よりなつかしく函中をながめています。

◇稲田 悦子(68期・昭41年卒)
写真をたくさんいただきましてありがとうございます。

◇近藤千寿子(69期・昭42年卒)
いつもお世話様です。

◇浅田 香(69期・昭42年卒)
今年の同窓会には出席できませんが、来年は是非出席して懐かしい先輩にお目にかかれればと思つております。

◇岩切 省三(69期・昭42年卒)
お役目の程御苦労様です。

◇佐野 洋子(69期・昭42年卒)
幹事さんいつもありがとうございます。函中の思い出は心の宝石箱でいつもキラキラと輝いています。

◇園 蘭美(69期・昭42年卒)
関西支部が発足、素晴らしい出逢いを素敵な関係の交流が広がるような気がして、快い刺激を感じております。いつまでも青春を共に感じたいと思つております。会報ありがとうございます。

◇斎藤 裕子(69期・昭42年卒)
十月八日は出席出来ませんが、盛大な会にして頂きたいと思つて居ます。

◇松川 宏子(69期・昭42年卒)
東京白楊だよりを毎回楽しみにしています。20号の「もう一度受けてみたい女子体育」が楽しかったです。

◇園 蘭美(69期・昭42年卒)
関西白楊ヶ丘同窓会支部発足に際しまして東京支部から、二上様・福津様・瀬田松様が忙しい中、御来阪下さり、お励ましを頂きまして感激でした。これからも益々親睦交流を賜わりますようお願い申し上げます。

◇佐野 洋子(69期・昭42年卒)
身体と同様、心も動かさなければと思つたこの頃、「東京白楊だより」をたいへん楽しく読ませて頂きました。豊富な内容に人から学ぶことを実感しています。同窓会・同期会は混迷する世相にあつて「心のオアシス」だと思つて居ます。出席できる体力がまだ回復してないので、会報、編集の皆様にご心より感謝しています。

◇板垣 裕則(70期・昭43年卒)
他校との交流という度量の広さに感じました。

◇男谷 洋子(71期・昭44年卒)
会報ありがとうございます。楽し

◇川村 哲雄(71期・昭44年卒)
今年も平日の開催で出席出来ず残念です。親睦大会の盛会と七一期の同期の皆様のご健勝を祈念致します。

◇片岡 進(71期・昭44年卒)
小学校、中学校、高校と新聞づくり一筋で生きていた私は、子どもの時から自分の新聞雑誌を作りたいと思つていましたが、四五歳で脱サラし、「月刊幼稚園経営」という私立幼稚園の専門誌を作りはじめ、三年になりました。一応日本で一番幼稚園に詳しい男と言われています。

◇谷口 雅典(72期・昭45年卒)
毎年この季節になりますと支部役員の方々の御苦労が我事の様に感ぜられる次第です。改めて御礼申し上げます。当方一企業人として、東日本(本州)一円を東奔西走の日々です。

◇田辺美栄子(75期・昭48年卒)
一年に一回帰国しています。母校へはしばらくごぶさたしています。新築した母校を次回訪ねたいと思つて居ます。

◇足立 文子(75期・昭48年卒)
約六年の英国駐在を終え、昨年八月初旬帰国し、また以前住んでいた所に戻つて参りました。

◇平山 智史(77期・昭50年卒)
会社の電話変りました。ソニー(株)コーポレート戦略部 〇三五四四八二五四四

◇三替 陽一(79期・昭52年卒)
平成九年三月二日付で十年振りに北海道に戻りました。〇四九上磯郡上磯町昭和二三二一〇一〇一三七八七三五八二

窓会活動においてインターネットを活用し、会員への情報提供、会員同士の情報交換などを活性化する動きのあることが説明された。「白楊ヶ丘同窓会東京支部ホームページ」開設に際しての企画書を作成、説明をしてくれたのは、今年度新支部長となつた七十九期高橋副支部長。

情報の流れ経路が、電子メールやホームページといったパソコンを手段として大きく変わろうとしている現状の中で、同窓会活動もその波に乗るうとして居ます。会員の皆様のご理解とご支援を期待しています。

69期・副支部長 梅田やよい

◇伊藤 紀子(60期・昭33年卒)
東京白楊だより、楽しく読ませていただいております。五十を過ぎてから時代小説にはまってしまいましたので、藤沢潤平が亡くなられがっかりして、います。

◇峰岸多美江(60期・昭33年卒)
会費納入遅くなってごめんなきい。どうぞよろしく。

◇谷沢 洋子(63期・昭36年卒)
いつもご連絡くださってありがとうございます。元気でおります。

◇柳生 芳枝(63期・昭36年卒)
いつも格別の御厚情ありがとうございます。

◇島田 栄(63期・昭36年卒)
老齡期まであとわずか、第三の人生はすべてをチャレンジととらえて、課題にチャレンジしていく方向へチャレンジしていくチャッチャッチャッチャッです。

◇佐藤 智樹(64期・昭37年卒)
いつもお世話になっております。

◇谷岡 豊(64期・昭37年卒)
平成九年七月より中部電力から中部計器工業経営部企画担当へ出向となりました。

◇佐々木好文(66期・昭39年卒)
会報ありがとうございます。皆様のご活躍に触れることが出来、高校時代のことを思い出しました。

◇林 睦子(66期・昭39年卒)
御苦労様でございます。会費遅れて申し訳ございません。

◇笠原 利宏(68期・昭41年卒)
幹事御苦労様です。

◇川上 一美(68期・昭41年卒)
いつもお世話になりありがとうございます。

◇石川 法子(68期・昭41年卒)
たまに同窓会に出てみたいと思つて居ます。帰省の車窓よりなつかしく函中をながめています。

◇稲田 悦子(68期・昭41年卒)
写真をたくさんいただきましてありがとうございます。

◇近藤千寿子(69期・昭42年卒)
いつもお世話様です。

評議員会報告

平成十年度の評議員会が四月二十八日、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで、三十二名出席のもと行われた。

午後六時三十分、二上支部長の挨拶のあと、平成九年度の事業及び収支決算を菅原・真船両副支部長が報告、田沼監事から監査の報告を受けて承認された。

続いて平成十年度の事業計画・予算案が提案説明され、原案どおり承認された。

また、今回新しい話題として、同

平成9年度東京支部 会計決算書

収入の部	
前年度繰越金	¥6,500,268
総会費(159名)減	¥1,272,000
年会費(1,057名)増	¥3,178,000
利息収入	¥55,881
雑収入	¥80,000
計	¥11,086,149

支出の部	
総会関連費	¥1,365,002
会報関連費	¥973,067
事務費	¥645,938
会議費	¥143,847
その他	¥761,524
次年度繰越	¥7,196,771
計	¥11,086,149

函館西高つつじヶ丘同窓会東京支部総会及び懇親会

第七回の標記総会等は、平成九年十月十八日午後一時から、恵比寿ピアステーション「フェストプロイ」において開催され、当支部から杉田・小林・菅原各副支部長と三國理事が出席した。

隔年に催されることもあって約三〇〇名が参加、前身が女学校だったので圧倒的に女性が多く、華やいだ雰囲気の中、和太鼓独演のアトラクションあり、応援歌ありで盛会裡に午後四時閉会した。
(三國記)

函館東高青雲同窓会に出席して

平成10年5月30日、はあとといん乃木坂で東高青雲同窓会の第14回総会が開催され、函中東京支部にも御案内をいただき二上支部長が都合により欠席されたため、田沼修二監事(45期)・福津達男理事(52期)・小林嘉則副支部長(63期)の三名が出席した。

会場で行進を務めるのは昭和41年卒業の16回生で今年がちょうど50歳になる方々。東高では大会を運営する幹事役を当番制にしており、50歳を機に一度は同窓会での御役を果たさなければいけない仕組みになっている。

形通りとはいえ別室にて決算報告等の議事が行われ、総会終了後は場所を移して参加者全員の集合写真が撮られた。一・二〇名程の撮影はやはり大変な騒ぎになるもので受付に到着したばかりの人がかけこんできたり、けっこう忙しい作業になる。

そのあと懇親会に会場を移しての親睦が始まり、集められた品物をオークションにかける等、なかなかの人気行事らしく舞台を速まきにしてのやりとりは楽しそうであった。

宴もたけなわプロの民謡歌手が登場、一緒に踊り出す先輩もいて場を盛り上げていた。函中の同窓会にはない一面を見せてもらい、毎年の担当幹事が変わるとやはりイベントとして夫々やり方があるものだと感心させられた。

西高つつじヶ丘同窓会も大変なお祭りになっていたが、戦前は庁立高女だったという歴史があるせいか、全体的に女性が多いという特長があり、校風によって雰囲気の違いを感じた。

他校との交流により、また一段と同窓会のあり方を学ぶ機会が得られたことで有意義な一日だった。
(小林記)

★白楊ヶ丘同窓会東京支部ゴルフ会「第九回・第十回ポプリ大会」
★三校対抗ゴルフ会「第一回・二回函館巴会」

白楊ヶ丘同窓会東京支部のゴルフ愛好者によるコンペ「ポプラ会」は、今年で五年目に入った。
第九回は、平成九年十一月十八日、埼玉県の東松山カントリークラブで開催された。今回は、十九人が参加した。当日は、好天にも恵まれ、スコアの善し悪しは別と

して快適なプレーが出来た。成績は、中村崇氏(第六三期)が初優勝した。ベスグロは、河原木義治氏(第六四期)が84で二度目の獲得。なお、この日は、二上支部長と同期の第五二期卒業・玄羊会がコンペも同じコースで行われたが、プレー後のパーティを合同で行ったため、大変賑やかな会になった。

このポプラ会とは別に、平成九年より、函館西高校と、東高校の同窓会支部とゴルフを通じて交流を図ることを目的に開催することになり、各校の役員による打ち合わせを兼ねた第一回目のコンペが平成九年十一月六日に埼玉県の東松山カントリークラブで西六人、東八人、中部八人の計二十二人が参加して行われ、個人は東の石川好子さんが、また団体は西校が優勝した。なお、プレー後の話し合いの結果、名称を「函館巴会」として年一回三校持ち回りで幹事を担当して開催することになった。



第2回函館巴会(江ヶ関CC)平成10年4月16日

前日までは不順な天候続きだったのが、コンペ当日になって快晴、微風の絶好のコンディションとなり、和気あいあいと終日プレーを楽しんだ。今回は、ポプラ会コンペの常任幹事の小林嘉則氏(第六三期)が、ベスグロを獲得するとともに初優勝した。

なお、ポプラ会コンペでは、毎回の優勝者に、棋士が対戦中に使用する扇子に二上支部長ご自身で揮毫して「二上賞」として進呈されている。
報告 65期・菅原大作
※ポプラ会申込先
FAX 〇三三四二四六八五四
63期・小林嘉則宛

第22回親睦大会

10月24日(土)、プレスセンタービルで

講演「渡り鳥のふるさとを追って」 相馬 正樹氏

講演会 午後1時～2時 懇親会 午後2時～

●講演者プロフィール●

相馬正樹氏略歴

一九二〇年函館の対岸の大野町生れ、昭和一三年函館中学を卒業(四〇期)して東海大学の前身の旧制専門学校で通信工学を学ぶ。卒業して母校に残り、海洋学部教授を最後に五〇年の教員生活を終えて退職。

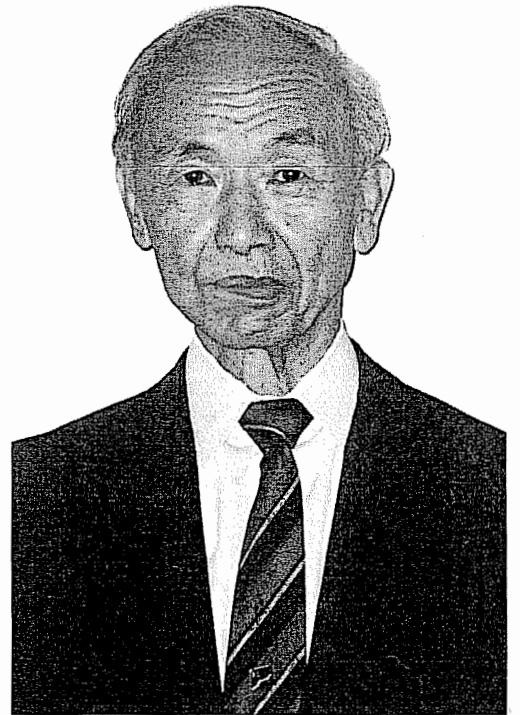
現在はバイオテレメトリーに関する三つの研究委員会委員。東海大学名誉教授。

著書

専門のエレクトロニクス関係が主体で、電気回路、電子工学、など一〇冊余、最近では専門を離れて、世界の著名な科学技術者の逸話を日記風にまとめた「未知の扉を開いた先駆者たち」と、野生動物の行動を追跡した「野生動物からのメッセージ」を出版した。

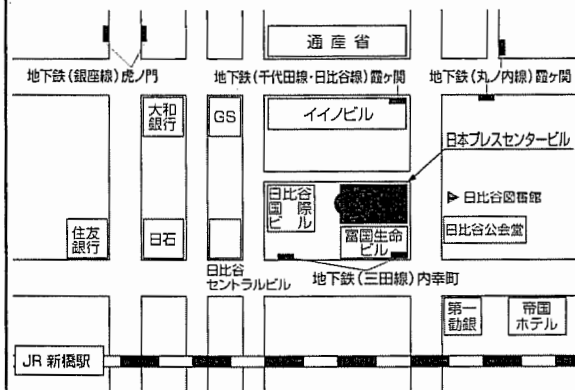
講演のテーマ

「渡り鳥のふるさとを追って」
海洋開発に電子技術を導入する



研究をしているうちに、海洋動物の行動生態の研究に興味を持ち、クジラやイルカと付き合う傍ら、サケの母川回帰の謎の解明にも挑戦した。その後、ツルやハクチョウなどの渡り鳥のふるさとを解明し世界の注目を集めた。
このような研究の間に得られた動物との付き合いの楽しさを紹介したい。

プレスセンターホール ご案内



●場所 千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル10階
会場の電話番号は (3501) 8931
[当日のみに限ります]

- ・千代田線「霞ヶ関」《イノビル出口》から徒歩2分
- ・日比谷線「霞ヶ関」《イノビル出口》から徒歩2分
- ・丸の内線「霞ヶ関」《日比谷公園口》から徒歩5分
- ・銀座線「虎ノ門」《新橋方面出口》から徒歩7分
- ・都営三田線「内幸町」《日比谷公園口》から徒歩5分
- ・J R「新橋」《日比谷口》から徒歩10分

訃報

叙勲のお知らせ
中村哲夫氏(四五期・昭和十八年卒)に、平成九年秋、勲四等旭日章が授与されました。
氏は板橋中央総合病院理事長として多年にわたり地域医療へ貢献され、病院協会から推挙されました。

編集後記

80回記念高校野球夏の大会が真盛りだが、東京白楊だより第21号の編集も手分けして校正の真最中。
今号の特集は戦後初めて唯一出場出来た函中甲子園物語感動篇である。それも今年は創部百年目を迎えるにあつて好企画のつもりなのだ、当時の思い出を語ってもらった諸先輩の時代や熱い思いが若い後輩達にわかつてもらえただろうか。
函館を離れていると母校の活躍振りを知るのがとても嬉しいものだ。それはスポーツばかりではなく、全国的な話題となれば何でも良い。パソコン研究部が旧式の機器ながらコンテストに入賞したというのも拍手喝采ものだ。おかげで東京支部のホームページ開設もあつという間に実現してしまつた。
内容についてはまだまだ検討の余地ありだが、インターネットを通じて同窓の輪がどれだけ広がるのか楽しみだ。率直なご意見いただけたら幸甚の思いだ。

- 発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
- 発行人 二上 達也(52期)
- 編集責任 小林 嘉則(63期)
- 発行日 平成10年9月1日

【東京事務所】
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-13-8 302
TEL:03-3352-6281
FAX:03-3341-5048